

## 第9回 石川県書写書道教育研究大会要項

### 1. 研究大会テーマ

「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」

2. 期日 平成 10年 11月 2日 (月)
3. 主催 石川県書写書道教育連盟
4. 後援 石川県教育委員会・内灘町教育委員会・石川県私立幼稚園協会
5. 会場 内灘町立大根布小学校・内灘町文化会館
6. 記念講演 演題「これからの書写・書道教育の方向と課題」

講師 平形 精一 先生：静岡大学教授：

：全日本書写書道教育研究会常任理事：

：全国大学書写書道教育学会理事：

### 7. 日程

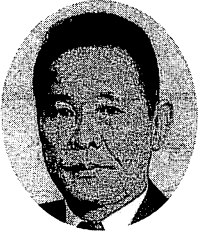
10:00 10:30 12:00 13:00 :40 14:25 :40 15:15 16:30

受付	研究協議会 I (内灘町文化会館)	昼食・休憩	受付	公開授業 (大根布小学校)	研究協議会 II	全体会 記念講演
----	----------------------	-------	----	------------------	----------	-------------

### 8. 研究協議会 I (10:30~12:00) 内灘町文化会館

内 容	提 案 者
これからの書写書道教育にむけて —— 情報化と総合的な学習 ——	押木秀樹 (上越教育大学助教授) 八田和幸 (金沢市立浅野川中学校教諭)

## 祝 辞



内灘町教育委員会教育長  
松 野 長 義

第9回石川県書写書道教育研究大会が、我が内灘町において開催されますことに心よりお祝いを申し上げますとともに皆様をご歓迎申し上げます。

ご承知のように、学校は21世紀初頭の学校週五日制完全実施に向けて、大きな変革を求められています。すなわち、子どもたちにとって伸び伸びと過ごせる学校、自分の興味・関心のあることにじっくり取り組めるゆとりのある学校、そして分かりやすい授業が展開される学校をめざさなければならないと言われております。また、総合的な学習の導入もあって、ますます国際化・情報化の進展が課題になってくると思われませんが、一方日本の言語や伝統、文化を大切にすることを培うこと、それらを現代に生かすようにすることも大切になってくると思います。

幸い本県においては、幼稚園から大学までの6校種が連携した本連盟が、熱心な活動を地道に続けられる中で、今日的な課題に対応してこられたことは誠に意義あることと敬服しております。お聞きしますと、此处数年「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育む書写書道教育」というテーマのもと、研究授業や研究発表を中心に実践的な研究を進められ、それぞれの校種にあった成果をあげられているとのことでした。今回の大会におきましても、これらの日頃の成果を交流しあい、さらに高め合っていただき、有意義な研究大会になることを願ってやみません。

最後になりましたが、本研究大会の開催のためにご尽力いただきました関係各位に、また研究授業並びに研究発表のために実践を積んでこられた先生方に心から敬意を表します。そして、石川県書写書道教育連盟が、本研究大会を契機にますます充実発展されますことを祈念してお祝いの言葉とします。



## 祝 辞

石川県教育委員会教育長  
西 貞夫

第9回石川県書写書道教育研究大会の開催を心よりお祝い申し上げますとともに、貴連盟が平成元年の発足以来10周年を迎えられ、多年にわたり本県書写書道教育の充実発展に尽くされましたことに、深く感謝の意を表するものであります

本年6月、中央教育審議会より「幼児期からの心の教育の在り方について」の答申がなされ、7月には教育課程審議会より、各学校がゆとりある教育活動を展開し、子どもたちに「生きる力」をはぐくむことを基本的視点とする答申が出されました。これらの答申の中では「豊かな人間性」を育むことの重要性や「基礎・基本を確実に身につける」ことの大切さが述べられております。第1回大会以来、貴連盟が大会のテーマとして掲げております「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる」ことは、まさに、答申の精神と軌を一にするものであり、この課題に向けての実践研究の成果がおおいに期待されているところであります。

我が国では、近年一段と情報化、国際化が進展し、社会の変化は予測を遥かに越えたものとなっております。このような状況の中で、子どもたちには、コンピュータやインターネットを自在に使いこなし、情報を的確に活用する能力を身につけることや、諸外国の言語・文化に親しみ、国際理解を深めることが望まれております。しかし、このような激しく変化する社会状況の中にあって、まず何よりも大切なことは、子どもたちが自己の主体性を喪失することなく豊かな心を育み、日本人としてのアイデンティティを確立することであると考えます。

書写書道教育は、日本の四季折々の美しい自然や伝統文化に支えられ、言葉をより正しく、美しく、表現に深みと厚みをもたらしそうとするものであり、また、「書は人なり」、「書は筆・墨・紙の芸術である」、「書は文学である」等多くの書論、書観が展開されていることから、われわれ日本人と書との不可分な関係を読みとることができます。漢字から流麗な仮名文字を創造し、東アジアの漢字文化圏の中で独自の文化を形成した祖先の在り方を思うとき、文字はその創造力と国際感覚をも示唆する遺産であり、時を超え日本文化の根元にあり続けるものであるとの認識を深くいたしております。

また、家族に教えられながら初めて自分の名前を書いた日の思い出は、子どもにとって忘れがたいものがあります。言葉や文字は親や周囲の愛情とともに、子どもに伝えられるものであり、書写書道教育の原点は国語教育と同様、まさに家庭教育に始まり、生涯にわたる学習へと発展し、日本人としての生き方そのものに深く結びついて存在すると言っても過言ではありません。石川県書写書道教育連盟がその独自の在り方として、幼児期から高等教育までを包括して活動する所以は、実にこの点にあるといえましょう。

最後になりましたが、大会開催にご努力いただきました関係各位のご苦勞に、深く感謝申し上げますとともに、本研究大会の成功と石川県書写書道教育連盟の更なる発展を祈念いたしまして、祝辞といたします。

## ご 挨拶



石川県書写書道教育連盟会長  
第9回石川県書写書道教育研究大会長  
齋 貝 雄

このたび、石川県の諸学校で、書写書道教育にたずさわっておられます教育者・研究者のご参加をえて、第9回石川県書写書道教育研究大会を、内灘町立大根布小学校と内灘町文化会館を主会場として開催することになりましたことは、誠に喜ばしいことであり、研究のご発表をされます方々やご参加下さいました各位とともに、心からの慶びを申し上げたく存じます。

さて、本連盟各位には、幼稚園から大学に至るまでの各校園・大学を、書写書道教育の一貫性・有機的連携性という目的のもと、全国にその例を見ない連盟化を全国に先駆けてなし遂げ、今年に至るまでの約10年有余の間、書写書道教育の発展のために努力され、本連盟会員相互の切磋琢磨と親睦のために心を盡くしてこられたところであり、その成果は徐々にではありますが、次第に評価を受けつつあるところでもあります。

また、当初、本研究大会の開催地をローテーション方式とし、特定の人々と地域に遍在しての活動を極力避け、更なる将来への発展を期して、輪番方式を目途としてきたところでありましたが、平成7年度の第6回大会で、初志を貫徹することができ、一サイクルを終え、目下、第2ラウンドの進行中ではありますが、これも本連盟の会員のご理解とご協力の賜物であり、本連盟の力量の漸進の証であるとも云えましょう。

第9回研究大会のために、ご遠路遥るばると、再度講演のためにわざわざご来県頂きました講師の、静岡大学教授 平形精一先生、そして、本大会の開催に当たってご指導と各種の便をお計りいただいた県・内灘町教育委員会のご好意に、連盟会員一同を代表して心からの感謝の意を表する次第であります。また、本大会を目指して、今日に至るまで研究発表のために研鑽してこられました押木秀樹先生・八田和幸先生・北野京子先生、そして研究会の助言者・司会者としてご参加賜りました諸先生方、さらに、本大会を成功裡に導くべく会場の設営等にご協力とご盡力を賜った大根布小学校の成瀬英義校長・教職員各位と内灘町文化会館々長と職員各位、及び本連盟研究大会実行委員の各位に、心からの敬意と感謝の意を表したいと存じます。また、石川県下の各地より、本大会参加のためにご出席下さった先生方の熱意に対して、敬意を表したいと思います。

最後になりましたが、石川県書写書道教育連盟が、会員各位の不断のご努力とご協力とによって今後ますます発展し、会員各位には、ご健勝にて研究・教育に益々ご精進下さることを心から祈念しまして、第9回研究大会に当たってのご挨拶と致します。



# 目 次

## 1、挨拶・祝辞

石川県書写書道教育連盟会長 第9回石川県書写書道教育大会長	藤 則 雄 -----	1
石川県教育委員会教育長	西 貞 夫 -----	2
内灘町教育委員会教育長	松 野 長 義 -----	3

## 2、第9回石川県書写書道教育研究大会要項 ----- 4

## 3、公開授業学習指導案

内灘町立大根布小学校 教諭	北 野 京 子 -----	6
---------------	---------------	---

## 4、研究発表

金沢市立浅野川中学校 教諭	八 田 和 幸 -----	9
上越教育大学 助教授	押 木 秀 樹 -----	19

## 5、研究誌上発表

松任市立松南小学校 教諭	柿 木 千 鶴 -----	27
石川県立津幡高等学校 教諭	林 昭 悦 -----	34

## 6、石川県書写書道教育連盟のあゆみ ----- 43

## 7、平成10年度石川県書写書道教育連盟役員一覧 ----- 48

## 8、第9回石川県書写書道教育研究大会役員一覧 ----- 50

## 9、石川県書写書道教育連盟規約 ----- 51

# 第9回 石川県書写書道教育研究大会

	発表者	司会者	記録者
研究協議会Ⅰ	石川県教育委員会学校指導課指導主事 塩 泰 尚 金沢市立芝原中学校校長 富 樫 慶 樹	七尾市立朝日中学校教諭 佐原加津美	石川県立河北台商業高等学校講師 酒井喜久子 金沢市立港中学校教諭 宮崎祐子

9. 公開授業 (13:40～14:25) 大根布小学校

校種	学年	題 材 名	授 業 者
小学校	3	筆使い (かたかな) 「ビル」	北野京子教諭(内灘町立大根布小学校教諭)

10. 研究協議会Ⅱ (14:40～15:15)

	発表者	司会者	記録者
研究協議会Ⅱ	七尾地方教育事務所主任指導主事 帽子山瑞枝 高松町立高松小学校教頭 城村政子	金沢市立三馬小学校教諭 北島洋子	七尾市立山王小学校教諭 橋場美貴 津幡町立条南小学校教諭 新谷幸一

11. 全体会 (15:15～16:30) 司会

- ・挨拶 石川県書写書道教育連盟会長
- ・祝辞 石川県教育委員会教育長・内灘町教育委員会教育長
- ・記念講演 平形精一先生(静岡大学教授)  
演題「これからの書写・書道教育の方向と課題」

## 第3学年 国語科書写学習指導案

内灘町立大根布小学校 3年1組

児童数39名

授業者 北野京子

1. 単元名 筆使い（かたかな）「ビル」

2. 目標

- ・自分の課題を見つけ、意欲を持って学習することができる。
- ・曲がりや折れの違いについて理解し、筆使いに気をつけて書くことができる。

3. 指導にあたって

第3学年の書写の学習においては「毛筆を使用して、点画の始筆、送筆（折れ、曲がりなど）、終筆（止め、はね及びはらい）などの筆使いに注意しながら、文字を丁寧を書くこと」が目標のひとつになっている。1学期は毛筆で、縦画、横画、折れ、はらいなど基本的な点画の書き方について学習した。本単元では、かたかなの筆使いを学習する。漢字と似た筆使いもあることから、今までの応用もでき、児童にとっては取り組みやすい単元であると思われる。しかし、曲がり、下から上への折れの筆使いは今まで書いたことのないものである。この二つの違いに気づいたり、筆使いを学習することで同じ筆使いを持った漢字にもまた、応用できると思われる。

本学級の児童は、4月から毛筆の学習に大変興味を持ち、意欲的に取り組んでいる。1学期は教師が主体になって、用具の使い方に慣れたり、基本的な筆使いを学習したりしてきた。しかし、折れやはらいなど筆使いは、個人差が大きく、まだまだ十分に書けない児童が多い。また、姿勢や筆の持ち方についても、しっかり定着していない児童がいるので、その都度声かけが必要である。硬筆で「ヒ」「ル」を書いたものを調べてみると、「ヒ」の曲がりの部分は、ほぼ全員書けていたが、「ル」では、折れが曲がりになっている児童が3名、折れた後が短く、はねのようにになっている児童が半数程度いた。

そこで、「曲がりは、速さをゆるめ、止めずに方向を変える。」「折れは、一度止めてから方向を変える。」という違いを毛筆で大きく書くことにより、しっかり確認させたい。また、一人一人が主体的に学習できるように、試書と教科書を比べて、自分のめあてをはっきりさせたり、練習用紙の順番を自分で決めるなど、使い方を工夫させたりしたい。さらに、毛筆での学習を生かして、曲がりや折れのあるほかの文字について硬筆でも気をつけて書けるようになることを目指している。

4. 指導計画（総時数3時間）

第一次 曲がりの筆使いに気をつけて「ピ」を書く。

第二次 折れの筆使いに気をつけて「ル」を書く。（本時）

第三次 「ビル」を清書する。硬筆でも書く。

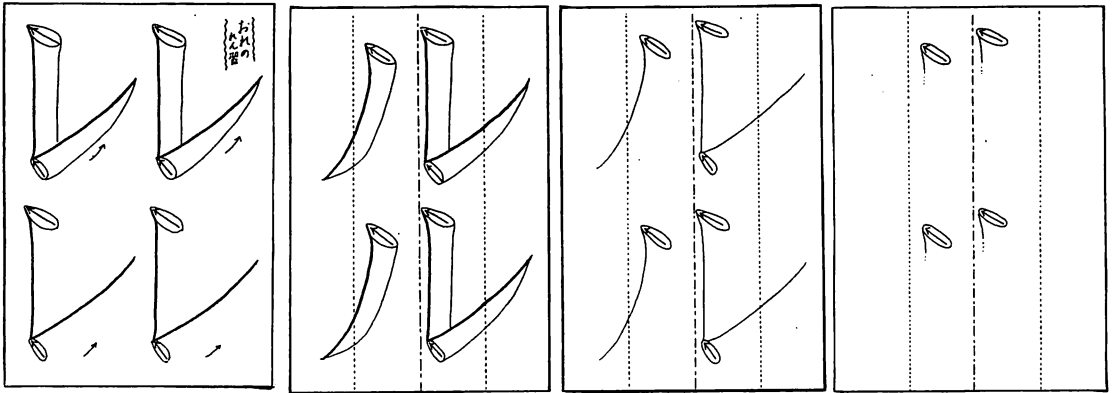
## 5. 本時の学習

- (1) ねらい・自分の課題を見つけ、意欲を持って学習することができる。  
 ・折れの一度止めてから方向を変える筆使いに気をつけて、「ル」を書くことができる。

### (2) 展開

学習活動	配時	児童の主な意識の流れと教師の働きかけ	・支援と★評価
1. 本時のめあてをつかむ。	5	○「ル」では、何に一番気をつけて書けばいいだろう。  折れに気をつけて「ル」を書こう。	・はっきりしない時は、折れが書けている「ル」と、書けていないものを対比して、提示する。
2. 試書をする。	5	○教科書を見ないで、半紙の上半分に「ル」を書こう。	・手を筆に見立て、大きく空書する。
3. 試書をもとに話し合い、基準を知る。	10	○直したいところはどこだろう。 ・二画目の折れを角張らせたい。 ・折れの後のはらいを長くしたい。 送筆…まっすぐ下へ、一度止めて軽く筆を置き直す。 終筆…右上へ筆を引き上げるように払う。	・点画ピースを操作して、折れの方向と、はらいの長さ注目できるようにする。
4. 自分のめあてを持つ。	3	○書写学習カードで自分のめあて（気をつけたいところ）に印をつけよう。	★基準に照らし合わせ自分のめあてを持つことができたか。
5. 練習をする。	10	○練習用紙で自分のめあてを中心に練習しよう。 ・折れをたくさん練習しよう。 ・折れの後のはらいをたくさん練習したい。 ・一画目のはらいもきれいに書きたい。	・水書板で範書する。 ・自分のめあてに合うように練習用紙の順番を自分で決めるよう働きかける。 ・机間指導をして、個別に筆使いについて助言する。
6. 清書をする。	5	○試書の下に清書をしよう。	・自分のめあてをもう一度確認するよう促す。
7. 自己評価をする。	5	○試書と清書を比較し、よくなったところはカードに丸をつけよう。	★自分のめあてを達成することができたか。
8. 次時の学習を知る。 (後始末)	2	○次は「ビル」の清書をするよ。	

練習用紙



評価カード

	<p>めあて おれにつけて「ル」を書こう。</p>	書写学習カード「ビル」②
		名前 ( )

大きく  
(○)ななめに  
はらう。

(○)おれ

研 究 發 表

# 「総合的な学習の時間」と書写書道教育

— 『拓本づくりにチャレンジしよう～北方心泉の書に親しむ～』

(サマースクール イ 銀【中姓】)の実践から ———

報告者 金沢市立浅野川中学校 教諭 八田 和幸  
共同研究者 金沢市立金石中学校 教諭 岩田 稚子

## 1. はじめに

中学校学習指導要領（国語科書写に関する事項）の、指導計画の作成と内容の取り扱いの欄にはこう記されている。

イ 文字を自ら進んで工夫して丁寧に書く態度を育てるとともに、書写の能力を生活に役立てる態度を育てるよう配慮すること。

「文字を自ら進んで工夫して丁寧に書こうと思わせるためには、教科書の参考手本を何度も繰り返し練習して、その中で醸成していくのも一つの方法ではあるが、書や文字に対して並々ならぬ情熱を注いだ人がいたことを、実際自分の目で見て、聞いて、知ることにより意識付けとなる。また、「書写の能力を生活に役立てる態度を育てる」には、書（写）が具体的に生活に生かされている場を見に行くことも有効だ。要は文字に対する（美）意識を高めることができれば、上記の目標に近づける。

2002年から導入が予定されている「総合的な学習の時間」では、今ある教科で学習したことを基本にして（本稿の場合は国語科書写）教科の枠を超えて横断的・総合的な内容を含む学習に展開していったり、あるいは体験的で地域に根ざした内容を加味していったり、柔軟に取り組むことが奨励される。従来の「書写」からはみだした活動の中から、今以上に文字に対して、受け継がれてきた日本の伝統や歴史を知ろうとしたり、文字を正しく美しく書こうとする意識を高めたりすることができれば申し分ない。本稿は、それらを目指した一つの実践の報告である。

「総合的な学習の時間」についての基本となる考え方については、後で参考資料を付記するが、指導する側に、柔軟な考え方や創造性、専門性や応用力、指導力などが、今まで以上に要求される。すべてを一人の教員で行おうとすると、非常に難しいことが山積している。しかし、見方を変えれば、目の前の児童・生徒にとって必要だと判断され（児童・生徒が興味・関心を抱くものの中で）、教えるべき（学ぶべき）価値があると思われることには、柔軟かつ自由に取り組むことのできる融通のきく時間ともいえる。一人の知恵や工夫で足りなければ、チームとなって、教員それぞれの得意な分野を組み合わせながら、授業に当たってもよい。今回も金沢市立金石中学校の岩田稚子教諭と協力して取り組んだ。そして、授業の展開によっては、従来の書写の範囲を超えて、高等学校の（芸術科）書道的な内容に踏み込んだり、専門的な内容の一端にふれるようなこともあるかもしれない。

（拓本づくりに取り組むこともこれに当たる。）教員の持っている知識・技能では、手に



余るような内容にまで発展すれば、その道に永らく苦勞してきた方を講師としてお招きすればよい。(今回は、山本幸雄先生に講師をお願いいたしました。ご職業は表具師ですが、永年拓本づくりに熱心に取り組んでこられた方です。)また、学習対象として取り上げたのは、地元金沢でも案外知られていないけれど、有名な書家、北方心泉きたかたしんせんである。“書に淫する”とまで言われ、書に熱中した人である。明治時代に日本や中国において、そうそうたる文人達と対等に親交を交わした人で、金沢市立小將町中学校近くの常福寺十四世住職でもあった。毎年7月29日には、「心泉忌」ということで、遺徳を偲ぶと同時に、常福寺において北方心泉ゆかりの作品が公開され、日頃心泉についての研究を重ねている心泉顕彰会の方々による、ていねいな解説も行われる。

また、この実践は、今夏、金沢市教育委員会が「サマースクール イン 金沢」と名付けて、市内の中学生を対象に、様々な教科をベースに模索しはじめた「総合的な学習の時間」の取り組みの一環でもある。

## 2. 「サマースクール イン 金沢」(1998. 7. 29実施)での実践の概要

「拓本にチャレンジ」と銘打って、金沢市内中学生に呼びかけて集まってきたのは、3つの中学校から男女とり混ぜて11名の生徒であった。内訳は以下の通り。

	男子	女子	
金石中	1 (2年)	6 (3年)	
浅野川中	3 (2年)		
野田中		1 (3年)	
計	4	7	11

書道部の生徒か、選択国語で書道の授業を履修している生徒が多く、単なる好奇心で応募してきた生徒も少数いた。異年齢集団となり、初めて顔を合わすもの同士で学ぶ場となり、最初はお互いよそよそしく緊張気味であった。

### ○北方心泉と書体についての学習(担当 岩田 稚子 教諭)

場所 金沢市立小將町中学校

中学校の書写で主に学習する書体は、楷書とやさしい行書である。ところが文字の歴史を繙いてみると、その他にも篆書・隸書・草書など、様々な書体があり、その歴史の方が長い。中学校では“正しく整えて、読みやすい文字を速く書ける”ようになるのが、書写教育の中心となる目標であるため、ほかの三体についての記述は少ない。中学校2. 3年生の教科書(光村図書)では、トピックとして、見開き資料「文字は何に書かれてきたか」や、p. 28「漢字と仮名の由来」(2年)、p. 39「漢字の成り立ち、書体のいろいろ」(3年)で簡潔に述べられているだけである。本来ならば、高等学校に進んでから、芸術科書道の中で学ぶべき内容であるかもしれない。しかし、興味・関心の高い生徒に対しては、先取りして、書体についての学習をすることや書作品の鑑賞をすることで、さらに、興味や関心を高め、意欲的に書写学習をすすめることになる。しかもその鑑賞学

習の対象となる作品が、質的に高い郷土の書家が作り上げたものとしたら……。さらに、発展して文字や漢字の歴史を調べる方向に進んで、社会科の歴史学習でめざすところともクロスする可能性も持っている。

郷土の書家・北方心泉について学ぶことを端緒に、地域のその他の偉人を調べたり、明治時代の金沢と東京、金沢と中国蘇州の状況などを調べるなどして、地域に密着した学習課題を持つことも意味があることだと思われる。

ここでは、北方心泉が書いた扇面「正心養気」をもとに、書体についての学習と心泉の人となりについて学んだ。

### ○「拓本づくり」について

サンプル数が少ないので、客観性にやや欠ける面もあるが、今回学習する目的を明確にし、意識を高めるために、拓本の作業にはいる前に、質問形式によるアンケート調査も行った。

設問1. 「あなたは、文字を書くことにこだわりを持っていますか。」（複数回答可）

	回数
ア きれいな文字、美しい文字を書きたいと思っている。	6 (55%)
イ 書きやすい（使いやすい）筆記具を選んでいる。	3 (27%)
ウ 他の人の字のうまいへたが気になる。	1 (9%)
エ 特に気にしたことはない。	4 (36%)

設問2. 「書写の時間は好きですか。その理由も簡単に教えてください」

ア 好き	2 (18%)
イ どちらかといえば好きなほう	4 (36%)
ウ どちらでもない	4 (36%)
エ どちらかといえば嫌い	1 (9%)
オ 嫌い	0 (0%)

好きな理由・筆の使い方によってものすごく太い字やものすごく細い字が自由に自分で書けることがおもしろい。

- ・字を書くのは好きな方だから。
- ・小さい頃から習っていたから
- ・小学校の時習っていたから
- ・書写が得意だから。

嫌いな理由・うまく書けないし、書き直せないから。

[分析] 募集に応じた生徒たちであるので、一般の生徒よりは、文字に対する意識が、元々高いと思われる。好きな理由の傾向は、字を書くこと字体に面白味を発見しているものと、習っていたことが（他の人との比較により？）自信となっている場合に分けられる。嫌いな理由は、率直なもので、指導者としては参考になる。

拓本づくりに結びつくように、以下の設問も行った。

設問3. 「石に文字が刻まれているものを見たことがありますか。」

ア ある 7 (63%)

イ ない 4 (36%)

[分析] お墓などがそうになっているのをよく見かけるので、それを思いつくかどうか、あるいは日常の身の回りのことを注意深く見ているかどうかを窺えるような設問であった。

設問4. 「どのくらい昔から石碑はあると思いますか。一番近いものを選びなさい。」

ア 200年ほど前 0

イ 500年ほど前 1

ウ 1000年ほど前 0

エ 2500年ほど前 7

オ 一万年ほど前 2

カ 百万年以上前 1

[分析] あいまいで、不適切な設問であった（出題当初は漢字の石鼓文《春秋時代末》や泰山刻石などを、想定しての設問であったが、エジプト文明やメソポタミア文明の文字の場合まで考えがおよばなかった。）が、生徒たちは「正解は～」と言われると、あつた、あたらないでうれしかったようである。

設問5. 「なぜ、人は石に文字を刻むのだと思いますか。」（石碑を建てた人の気持ちも想像してみよう。あなたならどんなときに建てますか。）

ふでやペンキで書いた文字はどうしても何年かたつたが  
かすめいつかは消えてしまふと思う。だから一度と消えぬよう  
に石に文字を刻んで何年たつても見てほしいという願いがあつた  
(野田中・林加奈子さん)

自分の気持ち、考えなどを後世の人々に伝えるため

(金石中・越野暢子さん)

次の世代の人たちに残したいから。

(金石中、佐久間 仁美)

自分が何かをして、何かをしていこうと残すため。

(金石中、直江 昭吾 君)

[分析] どの生徒もいいところを突いていた。

設問6. 「石に文字を刻む利点 (よいところ) と欠点 (わるいところ) は何ですか。」

利点・何年も残る。(同様の答え11人中7名)

- ・消えない。(3名)
- ・いろんな人に見てもらえる。

欠点・時間がかかる。(3名)

- ・かなりの労力がある。(3名)
- ・本来の自分の書いた字と違いそう。(2名)
- ・失敗を直せない。(2名)
- ・莫大な費用がかかる。
- ・動かさない。

[分析] どの生徒もいいところを突いていた。永遠に残したいという願いから作られるものだと思うが、現実には、石の材質や保存状態によっては、堅牢な石と言えど、どんどん風化していき、壊れていくようである。

設問7. 「石に刻まれた文字を、なるべく正確に写し取りたいと思ったら、どんな方法が考えられますか。」

- ・丸ごと写す。
- ・刻まれた文字に粘土のようなものを詰めて型を取り、それから作る。
- ・コピーする。
- ・カーボン紙で写す。

古来からの拓本の技法を簡略に説明した後、場所を常福寺に移し、実際に山本幸雄講師の指導の下、常福寺前にある二つの石碑（「真如一実之信海」と「月荘」）で拓本をとってみることにする。（ビデオ参照）

「真如一実之信海」は北方心泉の書によるもの、「月荘」は、明治時代日本を代表する書家である中林悟竹、日下部鳴鶴が心泉との交遊の中で、一文字ずつ揮毫した貴重な合作から作られた石碑である。

11名が一度に同時には作業にとりかかれないのと、墨を擦ったり、石碑を洗ったり、乾かししたりするのに時間がかかるので、2グループに分かれ、作業班と作品鑑賞班に分かれて交代しながら進めていった。

### 3. 生徒の感想

I ①北方心泉についてどう思いましたか。

右の作品もたいと飛ったけど、  
真如にたって書かたが本手にならな  
作品とかがかた

(金石中3年 目木伸枝さん)

感情によって字の形が少しずつ変わっていて、  
すごい人だと思う。努力をしたからこそすばら  
しい字が書けるんだと感心した。

(金石中3年 常田優希さん)

この人はすごい人だと思いました。いろんな  
書体をつかって、一つの作品を作り上げ、一日に  
100以上もの字を書き、ふつうではできないことを  
やりとげ、とても字のかくのかが好きな人なんだと思った。

(金石中3年 古谷恵さん)

②書作品（掛け軸や石碑）を見てどう思いましたか。

いろんな作品を見て、拓本のこともしらなかつた  
けど、すごいと言いました。そして、大きな  
拓本を見て、とてもおどろきました。そして、これ  
だけやるにはすごいくらいかいると思いました。

(金石中3年 古谷恵さん)

知識がとばいせいかよくおろなかつたけど、個人的な感じと  
いさきとした感じがあった。

(金石中2年 直江昭吾さん)

書体や大きさなど”と”れも痺って、見ていて  
おもしろい

(金石中3年 越野暢子氏)

③作品にはどんな書体がありましたか。

行書という作品と、いろんな書体か  
まったのもありました。

(金石中3年 佐間仁美氏)

てんし、新しい、かい書、きりぎりす、草書

(浅野川中2年 栗 佳実氏)

行書、草書など”はよく見るけど”、れい書や  
てん書は何も読めなかった

(金石中3年 越野暢子氏)

II ①拓本の作業を見て、また山本幸雄さんのお話を聞いて、どう思いましたか。

天候にも気がいながらやる。拓本の作業は、  
とても大変だと思いました。

(金石中3年 奥村千明氏)

見ているだけでとても大変な仕事だ”という  
ことがわかってきました。そして、拓本を作る  
のでも一つ一ついねいにやって、仕上げないとだ  
めだ”ということがわかった。

(金石中3年 古谷 恵氏)

最初の紙をは、7シワや中たはいた空気をはけ  
てたたりてなくすといろんな本当に”フ”の技だと  
思った

(野田中3年 林加奈子氏)

なかなか、話を聞いただけでも大変だった”  
た。あり、山本さんの言葉は重みがあった。

(浅野川中2年 橋本先生氏)

②自分でやってみてどうでしたか。

約3倍以上「たくぼん作り」をやったんだ  
けど、いろいろと大変で、これは根気が必要と  
思える作業だ」と思いました。

(野田中3年 林加奈子さん)

大変だった。

仕上がり、あんなにきれいになるとは、思わなかった。

(金石中3年 奥村千明さん)

あつくて大変だった。特にすみでたたくの  
がずっとついて、つがれた。でもかんせい  
してできた拓本を見ると、やったがいがあった。

(金石中3年 古谷恵さん)

拓本づくりは、ゆっくりと時間をかけてつくらな  
ければいけないし、あみがあったり、たんぽを使って  
たたいたりしても大変な作業だった。

(金石中3年 富田優香理さん)

III 今日のことを通して、(あなた自身の)文字に対する興味や関心は高まりましたか。

- |                      |     |
|----------------------|-----|
| ア 大変高まった(おもしろかった)    | 1   |
| イ 少しは興味を持った(まあまあ)    | 1 ○ |
| ウ 特に変わらない(おもしろくなかった) | ○   |

#### 4. まとめ

作業自体は大変だったが、その大変さを実感するだけでも、生徒にはよい勉強だった。北方心泉の情熱はもちろん、講師の山本さんの専門家としての技術の高さ、書写とはやや離れるが、人間観察もでき、いわゆる「生きる力」に結びつく体験であったと信ずる。多少の社交辞令も含まれているかもしれないが、「拓本をとる」という初めての体験を通して、生徒からの評価はますますであったと思うし、文字に対する意識は高まったと思われる。今後の中学校生活に生かしてくれることを期待したい。

## 5. 今後の課題

各学校で現実に「総合的な学習の時間」をとろうとすると、準備には、打ち合わせを含め、①十分な時間の確保が必要である。また、②手間を惜しまぬ教員側の情熱と情報収集能力、様々なことつなぎ合わせ、生徒や教員同士の長所や持ち味を引き出せるようなプロデュースする力、工夫で何とか乗り切るにしても、多少準備に必要な③費用の問題などが大きく残っている。

今回の活動に限っては、教育委員会のバックアップで費用面や交渉面では、話を進めやすかったが、時期的には「拓本」をとるには、夏はあまり良い季節とは言えず（生徒の感想にも暑かった、辛かったが連発されていた。）、本来は春か秋の雨が降って空気が澄んだ翌日の快晴の日の、なおかつ碑面に直射日光が当たらない時間帯がよいそうである。本来は、そんな日が来るのをじっと待つそうだが、今回は種々の都合でそうはできなかった。④実施時期の考慮。また、今回は中身の濃い充実した内容のものになったと思うが、時間の制約上、意図的に誘導した形が先行した。⑤生徒の力で課題を見つけ、発展させていけるような形をめざして、今後も研究していきたい。

評価については、評定（数字的な評価）はしないものの、文章による指導要録への記載は求められる。どういう形で記載するのか、これも考慮していかなければならない。

**（付 1）** 「総合的な学習の時間」に関して、教育課程審議会（平成10年7月29日）から出された答申の中では、**ねらい**について

ア 各学校の創意工夫を生かした横断的・総合的な学習や児童生徒の興味・関心等に基づく学習などを通じて、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることである。

イ また、情報の集め方、調べ方、まとめ方、報告や発表・討論の仕方などの学び方やものの考え方を身に付けること、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育成すること、自己の生き方についての自覚を深めることも大きなねらいの一つとしてあげられよう。

ウ これらを通じて、各教科等それぞれで身に付けられた知識や技能などが相互に関連付けられ、深められ児童生徒の中で総合的に働くようになるものとする。

また、**学習活動**については、

ア **ねらい**をふまえ、地域や学校の実態に応じ、各学校が創意工夫を十分発揮して展開するものであり、



イ 具体的な学習活動としては、例えば

- ・ 国際理解、
- ・ 情報、
- ・ 環境、
- ・ 福祉・健康 などの

横断的・総合的な課題、児童生徒の興味・関心に基づく課題、地域や学校の特色に応じた課題などについて適宜学習課題や活動を設定して展開するようにすることが考えられる。

ウ その際、

- ・ 自然体験や、
- ・ ボランティアなどの社会体験、
- ・ 観察、実験、見学や調査、
- ・ 発表や討論、
- ・ ものづくりや生産活動 など

体験的な学習、問題解決的な学習が積極的に展開されることが望まれる。

エ (省略)

オ 各学校においてこの時間を展開するに当たっては、

- ・ ある時期に集中的に行うなどこの時間が弾力的に設定できるようにするとともに、
- ・ グループ学習や異年齢集団による学習など多様な学習形態や、
- ・ 外部の人材の協力を得つつ、異なる教科の教師が協力し、全教職員が一体となって指導に当たるなど指導体制を工夫すること、
- ・ また、校内にとどまらず地域の豊かな教材や学習環境を積極的に活用することを考慮することも望まれる。

そして、**評価**については、

ア この時間の趣旨、ねらい等の特質が生かされるよう、教科のように試験の成績によって数値的に評価することはせず、

イ 活動や学習の過程、報告書や作品、発表や討論などに見られる学習の状況や成果などについて、

- ・ 児童生徒のよい点、
- ・ 学習に対する意欲や態度、
- ・ 進歩の状況

などを踏まえて適切に評価することとし、例えば指導要録の記載においては、評定などは行わず、所見等を記述することが適当であると考ええる。

# 情報化と書写書道教育についての考察

上越教育大学 押木秀樹

## 1. はじめに

### 1-1 情報化ということばの意味

「情報化」ということばが街に氾濫する今日、教育課程審議会の答申<sup>1</sup>においても、「情報化」という事項が各学校段階・各教科等を通じての主な課題としてあげられている。もちろん、手で書いた文字による伝達も情報のやりとりである。また「情報化」とは「情報が有力な資源となり、情報の生産・流通が社会の中心になっていくこと」という解釈もできよう。ただし、ここ数年、一般的には「コンピュータや情報通信ネットワークの普及等による変化」を「情報化」と捉えているように見受けられる。本稿においては、「情報化」についてこの一般的な解釈により、考察を進める。

### 1-2 コンピュータの発達過程と書写書道

コンピュータは当初、文字や数字・記号をコードによって扱うのみで、インターネットもその普及段階では e-mail / net news (Fj など) など、コードとしての文字のやりとりを主としていた。手で文字を書くという行為に関わらざるを得ない書写書道教育にとって、このような状況でのコンピュータ・インターネットの普及は、有益なこととは思えなかったのも当然のことである。その後、技術的進歩により、コンピュータ・ネットワークの扱える情報量は飛躍的に増加し、その結果画像さらには動画までも扱えるようになった。具体的には、MOSAIC にはじまり Netscape Navigator / Internet Explorer などのソフトウェアに代表される WWW の普及がその例と言えよう。文字を画像として扱える状況を迎え、書写書道とコンピュータ・インターネットとが、必ずしも逆のベクトルを示すものではなくなりつつある。ならば、書写書道教育においても、有効に活用できる部分は、おおいに活用すべきであろう。上記答申には、「小学校、中学校及び高等学校を通じ、各教科等の学習においてコンピュータ等の積極的な活用を図ること」という文言が見られる。書写書道教育においても、積極的に活用していかなければならないのである。

### 1-3 情報化と書写書道教育とを考えるための視点

とはいえ、コンピュータとネットワークで扱われる文字情報の多くがコードによるものであり、その入力の方法は、キーボードによるというのが現状である。吉村<sup>2</sup>が述べているように、当初考えられていたほど日本におけるキーボードの普及も難しいものではなく、一部の PDA (Personal Digital Assistant の略・携帯情報端末) において、手書き文字入力がいわれている程度である。このような現実から、コンピュータや情報通信ネットワーク等の普及につれ、手書き文字はどのように変わっていくのか、またそれにより書写書道教育はどのように変え変わっていく必要があるのかという点も、つねに考えていかなければならない。

以上を踏まえたとき、「情報化と書写書道教育」を考えていくためには、大きく分けて次の二点の考

察が必要になる。

①情報処理（伝達・記録・保存も含む）方法の変化と手書き文字の在り方

—情報化時代における手書き文字の役割を踏まえた書写書道教育とは？—

②情報処理機器の発達および変化と、書写書道教育・学習の在り方

—情報機器を活用することで、書写書道の授業がどのように変わりうるか？—

①は、手で書く機会が減少するであろうという一般的予測とともに、手書き文字の使用場面や目的の変化、すなわち情報機器と手書きとの使い分けなどを踏まえる必要があるということである。手で字を書くということの目的を踏まえなければ、書写書道とくに国語科書写を考えることができない。書写書道教育の目的論・目標論に関する部分といえよう。②は、パソコンやネットワークを書写書道教育の授業の中でどのように用いるかという問題である。書写書道の学習をより効率的に充実したものとするために、どう用いていくかを考えなければならない。こちらは、書写書道教育の方法論に関する部分といえよう。

以下本稿では、情報処理（伝達・記録・保存も含む）方法の変化と手書き文字の在り方について理論的な考察例を示すとともに、書写書道の学習における情報処理機器の利用について整理し、実際の活用を考えていく上での参考としたい。

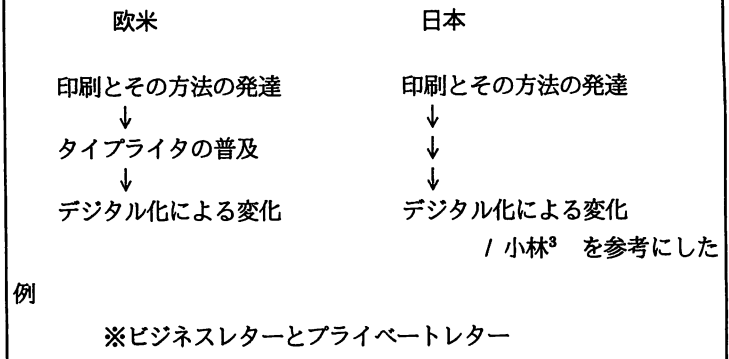
## 2. 情報処理様式の変化の中での手書き文字

### 2-1 手書きとそれ以外の方法との使い分け文化

コンピュータ・インターネットの普及が手書き文字にどのような影響をあたえるのか、その点を考えていく方法はいくつか考えられる。一つには、日本より先に進行しつつある国を参考にすることである。

たとえば、図 1 のように、欧米と日本とを比べて考えることができる。文字情報のデジタル化において、文字が比較的早い

図 1 欧米と日本における文字伝達様式（簡略図）



段階でコンピュータにのった欧米の情報に比べ、日本は漢字の問題からワードプロセッサ（以下、ワープロ。専用機・コンピュータソフトウェアを含む）の普及が欧米より一歩遅れたという現実がある。また、タイプライタのキーボードに慣れていなかった点も、日本においてワープロの普及が一歩遅れた理由といえよう。しかし、ワープロの普及の開始時期は、長い歴史から見れば微々たるもので、その普及のスピードを考慮すれば、無視できる程度の差と思われる。一方、一般人が手軽に用いることのできるタイプライタの普及の有無は、かなり大きな差といえるのではないだろうか。ワープロの普及に先駆けること約 100 年の歴史が、欧米における手書きとそうでない方法との使い分けの文化を成熟させていると仮定すれば、

次のことが言えるであろう。

欧米ではプライベートレターとビジネスレターとで、前者は手書き、後者は印字機器という厳密な使い分けがされている。公的な書類にはタイプライタ・ワープロなどの印字機器によってプリントしたものを、プライベートなものは手書きするという使い分け文化の成熟である。筆者の勤務校における留学生らが、日本の友人からのプリントされた手紙を見て、その人間関係についてがっかりしたという意見を述べることもある。自分は、その日本人を友人だと思っていたのに、その相手は事務的なつきあいだと思っていたことにショックを受けるというのである。実際に日本に来てみると、「日本は字を書くことを大事にする国である」という理解に反して、友人であってもワープロを用いることを知って、一方でほっとし、一方で少々がっかりするという意見を、複数の留学生が述べている。この文化は、欧米に限らず、ブラジルからの留学生も述べており、かなり広範囲なものと思われる。

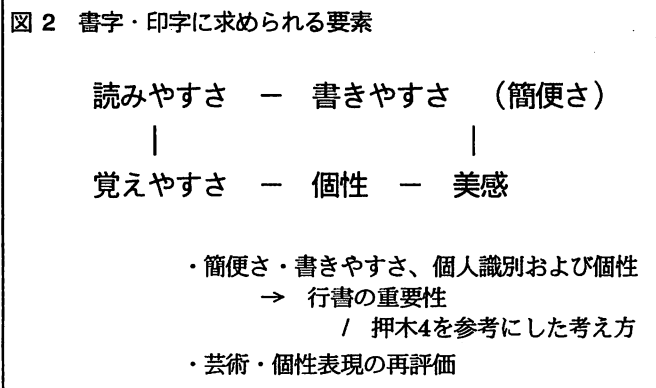
もちろん、この使い分け文化は、タイプライタなどの機器が普及してからの年月による成熟の有無ばかりではなく、小林3がいうように「言語道具観」や日本人の書字に対する苦手意識などの問題もあろう。しかし、書写書道教育に関わるものとして、この使い分けに関する意識の差は理解しておくべきことだと考える。

## 2-2 書字・印字に求められる要素からの考察

押木4は、手書き文字の視点の使用例として、「手書き文字の用途・目的と方向性」についての考察をおこなっている。これらを簡単にまとめると図2ようになる。この図によって、一般人にとっての、書字とワープロなどによる印字とを比較するとどうであろうか。読みやすさ・美感において、手書きは印字されたものにはかない。また、留学生など初めて日本語の書字をおこなうものにとって、覚えやすさという点も、ワープロの方が有利である。さらに書きやすさについても、それを早さ・疲労という解釈をすれば、ワープロの方が有利といえよう。ただし、現状においては、用具・機器の持ち運びや書き始めるまでの準備時間などの簡便さという点において、手書きの方が有利と言えるだろう。加えて、個性という点では、現状において手書きされた

ものに印字されたものは到底おおよばず、また技術上の問題ばかりでなく、一回性による貴重さという点で、印字は手書きにおよばない。

このように考えたとき、理論上からは、今後の手書き文字の方向性として、簡便さと個性がより生きるかたちが重視されてしかるべきだと考えられる。



## 2-3 理論上書写書道教育で重視されるべきもの

このように考えたとき、具体的にはどのような場面を想定できるであろうか。

個性という点では、印鑑による認証のみでなく、国際化に伴ってサイン（シグネチャ）による認証の必

要性が、指摘されている。各個人のサインを作るためには、積極的な個性表現が求められることもあり得、書写教育においても積極的な個性表現の方法についての検討が、必要となるかも知れない。また、個性については、先に挙げたプライベートレターとビジネスレターの問題もここに含めて考えることができるであろう。こちらはその人らしい文字を書くという意味から、典型としての手本を重視した学習から、本人が書く文字からスタートする書写教育という、上記に比して消極的な個性重視の学習が必要かと思われる。さらに、印字機器により表現の均一化が進むことで、芸術・個性表現の再評価が進むという考え方ができる。すなわち、伝達機能とは別に表現手段としての書の表現が一層クローズアップされることもあり得るのである。以上における個性化・国際化については、近年の教育思潮とも相通ずることであり、書写書道教育においても検討されるべき問題だと考える。

簡便さという点では、たとえば電話を受けつつのメモであるとか、授業を受ける際のノート・会議中のメモなどにおいて、まだワープロ等を用いている姿を見かけることは少なく、ほとんど手書きによっているといえよう。こういった場面において必要とされる要素は、読みやすさ・美感以上に書きやすさということになる。すでに押木4が提案しているように、このような理論上の考察から、書写教育における行書重視の方向性が考えられるわけである。書きやすいはずの行書を習得しなければ、速く書かねばならぬ場面においても楷書を用いざるを得ないことになり、楷書の読みやすさを低下させることにもなりかねない。先のサインの問題においても、欧米のサインにおいて Print Writing ではなく Cursive Writing を用いている例から、その曲線性において行書が優位だと考えることもできる。

### 3. 情報処理機器の発達と、書写書道の学習

それでは次に、二つ目の視点である「情報機器を活用することで、書写書道の授業がどのように変わらうか」について、情報機器利用の方法等を分類しておくとともに、そのメリットを考察する。

#### 3-1 情報機器の利用と分類

情報機器利用の方法等を大まかに分類したものが表 1 である。これらの分類は相互に関連している。たとえば、書写書道の特性から学習内容を「形状の学習」か「運動の学習」と分けることができる。サンプルの示し方を例に取れば、次のように説明できる。形状は書き上がった文字の形を示すことで可能であり、いわゆるお手本もその一つである。一方、運動、たとえば用筆については、比較的少人数もしくはいわゆる寺子屋式の指導の場合、教師の師範を直接示すことも可能であった。それが一斉学習による多人数に対する授業となり、運動の示し方も OHP やカメラとディスプレイ装置による方法などが工夫されてきた。また、教師が十分な書写能力をそなえていなくともビデオを用い録画されたもので示すなどの工夫がおこなわれてきた。このような形状・運動のサンプルを示すということはこれまでも可能であったが、情報機器の利用はそれらをより便利にすると考えられる。また、運動のサンプルを示す場合にも、各児童生徒が自分の見たいところを見ると言った場合、ビデオテープなどでは限界があった。この場合などにおいて、コンピュータを用いることで可能になることもあるだろう。このように考えることによって、「利用の可能性」「期待される効果」からの分類もイメージできるだろう。

ただし、「授業準備の簡便性」という点では、別の方向からも検討する必要がある。その授業・学習活

動のために作られたソフトウェアならば、OHP等を用いるより簡単であろう。一方、汎用のソフトウェアを用いる場合は、ある程度の知識と慣れが必要となり、OHP等よりも準備に要する時間がかかるという教師もあって当然である。さらに、専用のソフトウェアを自ら作るとなると、さらに簡便とはほど遠いことになる。

次に「学習の個別化」という点であるが、先の例においても各児童生徒が知りたい部分を見ろといった活動において、コンピュータ

の利用は有効であろう。さらにそれを進めることで、一斉学習における利用から「コース化されたソフトウェアによる自律的な学習」への方向性が考えられる。もちろん、一切教師が関わらないということではなく、児童生徒が個々の課題を見だし、それにあつた学習活動を展開していく必要がある場合などに、課題を見だす補助をし、それにあつた学習材を提示していくなどの用途も大切だと思われる。

### 3-2 情報機器を利用することによるメリット

これまであまりコンピュータとネットワークを使った経験がないという場合、これらを使うことでどのようなメリットがあるのか、把握しておく必要があるだろう。メリットを簡単にまとめたのが、表2である。書写書道学習の視点から、簡単に説明したい。

コンピュータを使うこと自体の興味・関心、目新しさという点は、今しばらく有効であろうと思われるが、これは本質的な問題とはいえない。次の「提示方法の多様化」については、先の例から理解できよう。これまで形に関するものは

表1 情報機器の利用に関する分類

学習内容からの分類
1. 形状を中心とした学習 2. 運動を中心とした学習
利用による可能性
1. 既存の指導・学習方法をより便利にする方向性 2. コンピュータを用いることにより可能となる方向性
期待される効果からの分類
1. 学習・指導およびその授業準備の簡便性と有効な提示等 ・黒板と掲示するもの ・ビデオ 2. 学習の個別化 ・評価と修正、課題の設定 3. パソコンそのものへの興味とゲーム的要素
ソフトウェアの種類による分類
1. 汎用ソフトウェアの利用によるもの 2. 専用ソフトウェアの利用によるもの
利用場面による分類
1. 一斉学習（場合によっては個別学習）における補助的利用 2. コース化されたソフトウェアによる自律的な学習

表2 コンピュータおよびネットワーク利用に関するメリット

利用機器の視点から
・扱える情報の多様性（動画・静止画・音声文章） ・情報の保存と活用 ・情報の加工 ・情報の表現 ・通信
書写書道学習の視点から
・学習の動機付け （コンピュータを使うこと自体の興味・関心、目新しさ） ・教材・模範例の提示方法の多様化 ・学習者の作業補助 ・学習活動物の展示方法の多様化 ・自律的学習手段 ・教材の有効利用

黒板に示し、運動に関するものは OHC でといった機器の使い分けが必要であったが、コンピュータ・ネットワークの機能がマルチメディア化されたことで、コンピュータという装置一つでこれらを組み合わせる学習できるようになった。

次に「学習者の作業補助」として、次のような例を考えることができる。たとえば、左右からなる部分の組立の学習において、左右の部分形を厚紙で作り、児童らが組み合わせてみるという学習はこれまでもおこなわれてきた。この部分形を厚紙で作るという作業は、場合によって教師が児童の人数分を作ることもあったであろう。また児童の課題ごとに、大きさを変えたものを作るなど、手間のかかる作業であったと想像できる。コンピュータであれば、グラフィックソフトで作成した部分形を各コンピュータの台数分コピーするなど、比較的簡単に再使用も容易である。ある児童らは部分形の大きさの学習が必要で、別の児童らには部分形の位置関係の学習が必要だということもあるだろう。どちらの課題を選ばせるかという場合、児童自身の自己評価力が必要となる。個々に対する対応という点で、コンピュータが個々の児童の文字を評価する補助をしてくれたらという考え方がある。この延長として、先に触れた「コース化されたソフトウェアによる自律的な学習」、ここでの「自律的学習手段」というメリットがでてくる。

近年のインターネットの普及により、「学習活動物の展示方法の多様化」が可能となった。学外、場合によっては海外からも見てもらうことが容易になった。国際化への対応など、授業の広がりが見られる。

そして、一般の教師としてのメリットで最も大きい点が、「教材の有効利用」であろう。上記の部分形の教材を例にとっても、パソコン上のデジタルデータであれば、紙と違って痛むことはない。また、著作権等の問題がなければ、コピーして利用することもできる。またインターネットのさらなる普及により、これらのうち使用にあたって料金等の問題がない教材を、一箇所にプールしておき必要なときにダウンロードして使用することで、再利用が可能となる。いちいちその指導内容に合わせて教材を作る必要がなくなり、さらなる蓄積に力を注ぐことも可能になる。

### 3-3 課題と方向性

ここまで考えてきたメリットは、現状でも実現可能なものもあるが、さらなる研究・実践が必要なものが少なくない。たとえば、用いるソフトウェアに関しても、一般的に購入できる「汎用ソフトウェアの利用によるもの」が多く、まだ「専用ソフトウェアの利用によるもの」は少ない。専用ソフトウェアの利用による個別化への対応や教師の負担軽減が有効となっていないのである。もちろん、専用のソフトウェアの利用例も見られるが、市販されているもの数も少なく、オリジナルのソフトウェアも学校や県の枠を越えて利用されていることは、ほぼないというのが現状である。

このことは、「既存の指導・学習方法をより便利にする方向性」は実現可能であっても、「コンピュータを用いることにより可能となる方向性」になかなか進みにくいということと関連する。特に、「個別課題への対応」「自律的学習」に関しては、さらなる研究とソフトウェア開発が必要である。

比較的早い時期に対応すべき問題として、「教材の有効利用」がある。次章に紹介するようにコンピュータ等を利用した教育実践は、すでに進められているがその情報が伝わりにくく、当然作成したソフトウェアの有効利用もなされていない。利用に関して料金がかからないソフトウェアの流通方法等が確立されることで、開発・作成のペースも加速すると思われる。

## 4. まとめにかえて

1996年度、各地の書写書道教育の研究大会で、コンピュータ利用に関する発表等がおこなわれ、筆者の知る限りでも、香川県と福井県の大会において、この話題がでている。さらに1997年度には、全日本書写書道教育研究大会高知大会において、パソコンを用いた研究・公開授業がおこなわれた。また、同年度の栃木県大会では、字形などの形状の学習と用筆などの運動の学習両面からのコンピュータ利用による授業がおこなわれている。

高校書道に限定してみた場合、全国高等学校書道教育研究会熊本大会にて、古典の文字を簡易データベース化しておき、検索後それをグラフィックソフトで張り合わせて、作品の雛形とする研究などが報告された。さらに、全国大学書写書道教育学会岡山大会にて、千葉県立生浜高等学校の染谷先生が、生徒たちがMacのHyperCardで作品の雛形を作るという実践を行い、生徒らの反応についての分析をおこなった研究が発表された。また、秋田県立六郷高等学校の竹村先生は、作品をインターネットで展示する活動などを以前から進めている。

専用ソフトウェアとしては、国語科教育全般のCAI教材の中で、筆順・部首といった書写的要素が含まれるものが少なからず見られたが、近年は商品名「書写の世界」「習筆(ならいふで)」などに代表される書写専用のソフトウェアが市販され始めた。また、研究段階とはいえ、中部大学の「JKanji」のように、字を書く様子を動画で見て、パソコン上に実際に書いてみる、そしてその字形・筆順の評価を行うといったソフトウェアも開発されつつある。

これらの状況は、刻々と変化している。筆者としては、できるかぎりの情報を、WWWのページ「書写・書道CAIの現状」(<http://www.juen.ac.jp/~oshiki/cai/shocai.htm>)において提供していきたいと考えている。また石川県書写書道研究大会第9回大会において、コンピュータ・ネットワークを用いた教育実践例やソフトウェアの例について、前章までの分類・メリットに則した紹介をおこなう予定である。その内容については、稿をあらためて執筆したいと考えていることを付記しておく。

図3『平成八年度香川県小学校教育研究会書写教育研究発表会 研究紀要』より香南町立香南小学校の実践

○ コンピューター(液晶ビジョン)

コンピューターで筆順、文字の大小、脱形、外形、ポイント、組み合わせ方などを提示している。全体への提示は液晶ビジョンで行っている。透光に重点はあるが、大きく映すことで注目しやすく、その間教師は個々の観察ができる。

子どもが自ら操作し活用することで、書くことが苦手な子どもも楽しんで取り組んでいる。



(5年生 教材文字「晴れ」)

1 文部省教育課程審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校の教育課程の基準の改善について(平成10年7月29日 答申)」/1998.7

2 吉村「文字を書くことのこれから—情報工学の立場から—」(全国大学書写書道教育学会創立十周年記念シンポジウムより)/『書写書道教育研究』第10号、1996.3

3 小林「活字及び印字機器の普及と書字教育の在り方」/『書写書道教育研究』第8号、1994.3

4 押木「手書き文字研究の基礎としての研究の視点と研究構造の例」/『書写書道教育研究』第11号、1997.3



Memo :

研 究 紙 上 発 表

## 基礎基本を大切に、楽しく書ける授業をめざして

松任市立松南小学校 柿木千鶴

### 1. はじめに

小学校において3年生で初めて毛筆にふれる子どもたちの様子からは、その多くはたいへん喜んでわくわくしながら書く姿が見受けられる。ところが、時が経ち、学年が進むにつれて、ややもすると「上手な子」「美しく書ける子」にとってのみ、前向きに取り組むことができる時間となりがちである。自信を持って取り組むことができない子にとっては「苦痛な時間」と化してしまうことも少なくない。

これらに代表される数々の指導上の悩みについて石川郡学校研究協会（石学協）の国語部会の書写部門の先生方と研究する機会に恵まれた。勤めが松任市となり、籍は離れたものの、今までと変わらず、引き続きお互いの実践について検討する機会を持っている。今回、諸先生方のお力をお借りして、これまで皆さんと積み重ねてきたことを代表してまとめてみたいと思う。

児童が意欲的に授業に取り組むには、児童一人ひとりに応じた指導の場面が不可欠と考える。まずは、題材による基準を課題とするが、その子なりの立ち止まりが生じた際に、自己の課題を明確にするための工夫が必要となるのではないか。一方、その前提として基礎基本の習得がなされなければならないことは言うまでもない。そのための授業における工夫、教材教具についての工夫も検討してきた。

また、授業の中で一人ひとりが認められることにより喜びが生まれ、その喜びが仲間に広がり、さらには学ぶ意欲につながると考えて、その「場」づくりについても考えてきた。

### 2. 研究の内容

#### 1：基礎基本を習得するために

##### <授業の準備や後始末の工夫>

毛筆を使う授業では、準備後始末に時間がかからないようにすることから話し合うこととなった。特に入門期においては、準備や後始末を繰り返し指導する必要がある。いかにスムーズに行なうか。授業の後始末に重点をおいて考えた。

書き終えた半紙を新聞紙にはさむ工夫。第8回大会で北村先生が子ども達に持たせていた大判白ボール紙を利用した「手作り書写バッグ」（思い思いの絵を描いた作品ばさみ）。さっそく作ってみたが子ども達にはたいへん好評である。

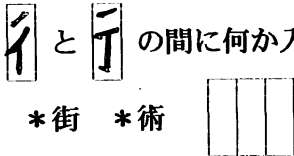




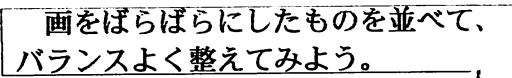
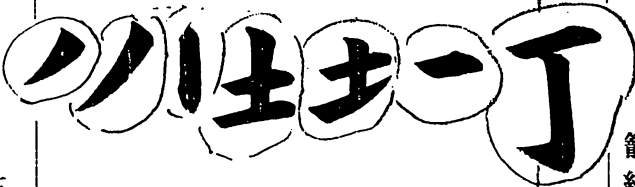
また、次の授業に気持ち良く取り掛かれるように、筆洗い用に蓋つき小瓶（海苔やジャムなど）を持たせて後始末している。

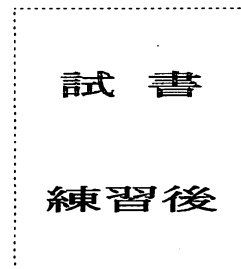
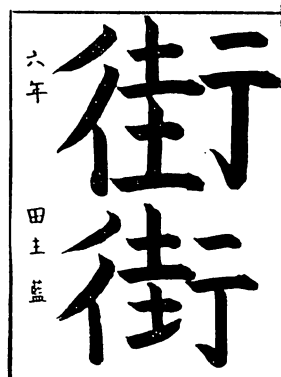
## <教材・教具の工夫>

「骨書き」「籠書き」などの練習用紙を準備してみた。市販の用紙も出されているが、手作りの用紙を作ることにより、その授業のねらいなどを再考することができる。また、文字の組立方や点画の組合せを学習するために、「点画ピース」を用いて工夫している。いつもいつも十分な準備をすることは難しいが、児童が、具体的に課題をつかむことには大きな効果がある。

筆使いの学習には、水書板を利用したり朱墨をつけた筆の穂先に墨汁（黒）をつけて師範することにより、穂先の動きがわかる工夫などを取り入れている。

## <授業の展開例> 文字の組立方「街路」（6年）<3時中の1時>

学習活動	予想される学習の流れ	教師の支援
1. 学習のめあてを考える。	 <p>イ と 丁 の間に何か入れて字にしよう。</p> <p>*街 *術  の三つの部分で</p> <p>成り立っていることを知る。</p>	黒板に画用紙を用意する
2. 試書する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書を見ないで「街」を書こう</li> <li>教科書の手本と比べてみよう</li> </ul>	比べる手立てを助言する
3. 基準をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>*一画目と二画目の方向や長さが同じになった。</li> <li>*: 二つ目のはにならなくてはいけない。</li> <li>*三つの部分の高さは違うのに、同じ高さになってしまった。</li> </ul> <p></p>	黒板にて点画ピースを用いて実習させる
4. 練習し、批正する。	 <p>*練習用紙や半紙で練習しよう。</p>	籠書き・骨書きの用紙を選択させる
5. まとめ書きをする。		相互批評をさせる。



## II：個に応じた指導の工夫

### ＜意志決定・行動選択の場づくり＞

題材による基準に加えて、自己の課題を明確にすることに取り組んでみた。たとえば、「左右」の題材では、「正しい筆順で、字形を整えて書く」が授業のめあてである。1授業1めあてを基本とするものの、「中心を通したい」「はらいを上手にしたい」という副次的な各々の課題をも授業の中で取り扱うことにより、児童の意欲がさらに高まるのではないかと考えて試みた。

\*自分の課題にあった練習用紙を選択するための工夫

\*自己のめあてを明確にするための学習カードの工夫

時間的制約がある中で、どれだけ十分に効果があがるかという疑問は払拭されないが、「意志決定」し、「行動を選択」しなければならない場を持つことは、めあてに対しての自分なりの立ち止まり生まれ、さらなる意欲の高まりを生むというに効果が見られた。一方、個々の学びの姿を教師がどのように把握していくのかという課題も生まれた。1校時の中で考えてしまうと限界はあるが、数人の児童に焦点をあわせることを繰り返すことで、数校時に渡ってクラスの子ども達にかかわっていく工夫も考えられる。また、時には2校時続きの時間を作って十分に時間をかけて取り組むことも一つの方法ではないだろうか。

また、赤ペン・赤チョーク・竹ひご・硬毛ペンなど児童一人ひとりに批正するための道具を持たせることにより、自ら学ぶ姿勢がさらに高まることができた。

<授業の展開例>

筆順と字形「左右」(4年)

学 習 課 題	予 想 さ れ る 児 童 の 反 応	教 師 の 支 援						
<p>1.本時のめあてについて話し合い、自分の課題を確認する。</p> <p>(1)試書をする。</p> <p>(2)試書から気付いたことを発表する。</p> <p>(3)上達のポイントを見つける。</p> <p>(4)自分の課題をカードに書き込む。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">正しい筆順で字形を整えて書こう</div> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 50%;">「左」</td> <td style="width: 50%;">「右」</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 2em; margin-right: 10px;">左</div> <div style="font-size: 0.8em;">                     ・筆順に疑われる                      ・一画目は短く                      ・二画目は長く                      ・二画目の方向                 </div> </div> </td> <td style="vertical-align: top;"> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 2em; margin-right: 10px;">右</div> <div style="font-size: 0.8em;">                     ・筆順に疑われる                      ・一画目は短く                      ・二画目は長く                      ・一画目の方向                 </div> </div> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">                     ・外形は  </td> <td style="text-align: center;">                     ・外形は  </td> </tr> </table>	「左」	「右」	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 2em; margin-right: 10px;">左</div> <div style="font-size: 0.8em;">                     ・筆順に疑われる                      ・一画目は短く                      ・二画目は長く                      ・二画目の方向                 </div> </div>	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 2em; margin-right: 10px;">右</div> <div style="font-size: 0.8em;">                     ・筆順に疑われる                      ・一画目は短く                      ・二画目は長く                      ・一画目の方向                 </div> </div>	・外形は	・外形は	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材文字と比べさせ自分の良さや問題点に気づかせる。</li> <li>・具体的に描くことが大切であることを助言する。</li> </ul>
「左」	「右」							
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 2em; margin-right: 10px;">左</div> <div style="font-size: 0.8em;">                     ・筆順に疑われる                      ・一画目は短く                      ・二画目は長く                      ・二画目の方向                 </div> </div>	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 2em; margin-right: 10px;">右</div> <div style="font-size: 0.8em;">                     ・筆順に疑われる                      ・一画目は短く                      ・二画目は長く                      ・一画目の方向                 </div> </div>							
・外形は	・外形は							
<p>2.練習する。</p> <p>(1)自分の課題にあった練習用紙・練習方法を選択する。</p> <p>(2)自己批評しながら練習する。</p> <p>3.まとめをする。</p> <p>(1)まとめを書く。</p> <p>(2)相互評価する。</p>	<p>自分のめあてにあった練習用紙や練習方法で書こう。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>&lt;練習用紙の選択&gt;</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> </div> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>&lt;練習方法の選択&gt;</p> <p>・本番でかく ・分解文字を操作する ・OHPのシートで写す</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・注意する点をもう一度確かめよう。</li> <li>・ここが上手に書けたよ。</li> <li>・友達のよいところを見つけたよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の課題に対してどの練習用紙が適当であるか助言する。</li> <li>・良くなったところを認め合ったり、つまづいている点について助言する。</li> <li>・ポイントを話しながら範書する。</li> <li>・試書とまとめを比べ伸びを見つけさせ、お互いに認め合わせ場とする。</li> </ul>						

- 評価・正しい筆順で、字形を整えて書くことができたか。
- ・自分の課題にあった練習用紙や練習方法を選んで伸び伸びと書けたか。

### Ⅲ：一人ひとりを認め合い、自分らしさを表現することを楽しむ工夫

#### ＜書き初めの取り組み＞

基礎基本の学習で貯えた力を時には、さらに発展させて取り扱うことも行なってみた。「書き初め」の学習を統一した字句ではなく、自由選択の課題として取り組ませてみたのである。「自分で決定した課題」は各々納得のいくまで取り組む姿を多く生み出したように思う。また、字句を選ぶ段階における「楽しさ」や出来上がった作品を鑑賞する際に人それぞれの表現、ことばの味わいが加わり、今までにない楽しさを味わうことができた子どもが多かったようである。

多くの子が「参考手本」を利用したいということで、わたしたち教師がたくさん勉強しなければならぬことにもなったが、教師と一人ひとりの児童との関わりこそが児童の意欲の高まりへとつながることを改めて感じた次第である。

書き初めの課題を自分で考えてみよう

書き初めは新しい歳を迎える「勉強初め」。勉強といっても何もいい点を取るとかいい成績を取ることが本当の勉強の目標ではないと考えます。小学校を卒業し、中学校へ進学する節目の時期を迎える皆さんにとつて、今までの自分を振り返り一人の人間として来年はどのようなようになれるかと考えること。あるいは歳のはじめに自然の息吹を感じて心新たにすること。それが本当の「勉強」と考えます。

できないことを無理にやろうとすることが「決心族」になつてはいけません。どうか無理のない自分らしいことばをさがしたり作ってみてください。そして、来年のはじめに心清らかに白い紙にむかって書き上げてみましょう。

とりあえず、練習に教科書の語句「未来の夢」「宇宙都市」を書いてから、自分の語句を書くのもひとつです。また、ひとつに決められない人は、二つまで出してもいいことにします。

参考例

自分でさがすことがむずかしいという人は、次の例句を参考にしましょう。

未来の夢	緑の山野	春は中学
心に太陽	白山連峰	深い友情
平和な世界	巢立ちの春	青雲大志
天地皆春	早春梅花	飛翔の年

自分が決めた語句

鉛筆で心をこめて書いてみましょう

書き初め展にも挑戦してみましょう

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇「○○○○」

参考手本は必要ですか

当てはまるところに○を付けてください。

必要です (自分の語句)  
必要ありません

(○○○○) (○○○○) (○○○○) (未来の夢「教科書」)

(提出締切は 十二月 日 曜日です)

△児童の書き初め作品から▽（六年生）

天地神明

経験豊富な児童。文字のバランスに苦心していた。

心に太陽

経験豊富な児童。硬筆もののびのびと書くことができる。

天地清新

経験豊富な児童。

鬼道風雷

学年当初は、小さくて細かい字しか書けなかった。

天空の城

毛筆、硬筆ともに小さい字を書く児童だった。

巢立ちの春

五文字を選び、字配りに苦勞して練習を重ねた。



### ＜短冊や色紙や篆刻を取り入れて＞

国語の時間に「俳句や短歌」を学んだ際に、好きな句や歌を短冊にサインペンで書いてみたり、図工の時間に「篆刻」をして、自分の名前印を作ってみたりした。他教科の学習内容と関連づけて合科的に学習することも、文字意識を高め、楽しさをより豊かにすることにもつながった。

6年生の学習のまとめとして、色紙作品に取り組んだ際は、各々が好きなことばを選び、いつも以上に真剣に筆をとり、名前印を押印して「卒業発表」の一部として展示した。先に述べた「書き初め」から一連の流れとして取り組んだが、皆で鑑賞する中から一人ひとりの存在感が互いに伝わり、互いを認め合う姿がみられた。各々が自分らしさとは何かを確かめるよい機会ともなった。

### 3. おわりに

2002年の教育課程の改編において導入される「総合的な学習の時間」のなかにおいても書写・書道的要素を含んだ様々な工夫が考えられる。また、生涯教育に目を向けてみても「書写・書道」には多くの魅力があることは議論を待たない。長いスパンで個性を育むための教育が様々なところで考えられている今日である。この改革の時期に時には多くの情報に自分自身が混乱してしまうこともある。

今回、様々な試みを総花的にまとめることしかできず、至らない点ばかりの内容となったが、このふりかえりによって、今一度、基礎基本という原点を見つめ直すことができたように思う。普段の授業はというと「作品」中心（清書をしあげる）の授業から、脱皮できていないし、基礎基本の力をつける実践を地道に探っていかなければならないと強く感じる次第である。

共同執筆：（河内小学校：安田陽子・美川小学校：佃さえ子・菅原小学校：中川晃成）

# 生徒一人一人の表現や感覚を尊重した 指導と評価の工夫

石川県立津幡高等学校 教諭 林 昭悦

## 1. はじめに

本校は、普通科、体育科、園芸科の三科が併設された全日制の高校である。芸術科目は音楽・美術・書道のうち一科目を選択させているが、書道を選択する生徒数が一番少なく全体の四分の一程度である。この傾向は本県の高校全体についても言えることである。芸術科書道の履修状況については、普通科が1年次に2単位、2年次に1単位、3年次には就職コースのみが2単位を履修している。体育科は3年次に2単位、園芸科は1年次に2単位を履修している。

そのうち、体育科と園芸科の指導内容については、一年間だけの履修となるので特に工夫を凝らしてきたつもりである。ここでは、3年次の履修のために授業時数の少ない体育科についての実践例を挙げて発表することにした。

## 2. 基本的な考え方

近年、芸術に対する豊かな感性及び創造的活動への主体的な学習活動を育成するための指導と評価の工夫・改善について研究がなされている。特に評価については、いわゆる指導の結果だけでなく、生徒一人一人の取り組みや生徒の変容などを適切に評価していこうとする考え方が大切にされるようになってきた。

全国の研究大会や文部省主催の研修講座に参加すると、診断的評価、形成的評価、観点別評価、自己評価、相互評価等々の言葉が多く見られるが、要するに、指導と評価の一体化を図り、生徒の学習意欲が向上し、個性の伸長が促され、それが生涯学習につながればよいのである。

言うまでもなく、こうした指導の過程を評価に取り入れる最大のねらいは、より意欲的に、かつ主体的に取り組むことができるようにするためである。そのためには各単元の学習内容や学習段階に応じた評価を工夫しなければならない。私も、これまで全国の事例を参考にいろいろ試行錯誤を繰り返してきた。昨年度から四つの観点別評価をベースにして、書道ノートや評価カードを作成したり、レポートを提出させている。また、生徒自身に課題を見つけさせ、意欲的に学習できるような授業展開を心掛けてきたつもりである。学習の過程において、具体的にどこがどのように変わったか、自己の変容について文章化したり発表させると、目標達成度がより明確になり、ひいては自己発見にもつながるものである。

3. 学習指導年間計画 「書道Ⅰ」

(平成9年度/体育科3年・2単位)

月	実施 時 数	単 元	学 習 内 容	評 価 の 観 点			
				関 心 意 欲 態 度	感 受 表 現 工 夫	創 造 表 現 技 能	鑑 賞 の 能 力
4	2	オリエンテーション	・ 書写から書道へ ・ 芸術科書道の紹介(VTR) ・ 書体と書風	○ ○			○
	4	用具・用材 姿勢と執筆	・ 文房四宝 ・ 執筆法 ・ 書道用語	○ ○ ○			
5	14	楷書の学習	・ 楷書の基本点画(永字八法) ・ 古典の臨書 九成宮醴泉銘(背勢) 孔子廟堂碑(向勢) 顔氏家廟碑(直筆藏鋒)	○ ○	○ ○		○
6	2	作品制作	・ 楷書による作品制作	○	○	○	○
9	1	生活の中の書	・ 新聞やチラシなどから事例 を収集(夏休み中の課題)	○			
	2	拓本実習	・ 湿拓(蟬翼拓・カラー拓)	○		○	○
	4	隸書の学習	・ 隸書の特徴 ・ 木簡の臨書 ・ 名札(表札)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○
10	2	篆刻の学習	・ 名印の作成(白文)	○	○		
11	8	行書の学習	・ 行書の特徴 ・ 蘭亭序の臨書	○ ○	○ ○		○
	4	仮名の学習	・ 仮名の成立 ・ 単体と連綿	○	○		○
12	7	刻字の学習	・ 字句(1~2字)や書体の選定 ・ 刻す ・ 着色と仕上げ	○	○ ○	○ ○	○
1	3	漢字・仮名 交じりの書	・ 作品鑑賞 ・ 漢字と仮名の調和 ・ 巻紙に手紙を書く ・ 封筒・はがきの書式	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○

【参考】 園芸科1年：篆刻・刻字の学習 → 作品制作(色紙カレンダー)

仮名の学習として → いろは帖の制作(和綴じ製本まで)

#### 4. 指導実践例その一

##### ①単元名 隷書の学習（木簡を題材に名札作品まで）

##### ②設定の理由

漢代の常用書体であった隷書は、今日では日常の書写に使われることはないが、その装飾性から、題字、表札、看板や芸術作品の分野に用いられている。

また隷書は、楷書、行書、草書の成立の源となった書体である。後漢の八分隷を鑑賞することで隷書の特徴がおおよそ理解できるが、ここでは当時の生活に密着した生々しい肉筆である木簡を題材にして、古代人の心情に触れさせたい。

さらに、名札（表札）作品制作をとおして成就感と完成の喜びを味わい、生活書への興味・関心を深めさせたい。

##### ③単元の目標

(1)隷書の用筆・運筆法や字形のとり方の基本を理解させる。

(2)木簡の中から興味のあるものを一つ選び、隷書の表現力を高め、名札（表札）作品に活用させる。

(3)身の回りにある隷書への関心を高め、文字意識を向上させる。

##### ④指導計画（4時間）

第1時：隷書としての完成度の高い「礼器碑」と「曹全碑」を鑑賞し、特徴を理解する。また、生活の中で隷書が使われている事例を見つけ、興味・関心を深める。（夏休み中の課題を利用する／資料参照）

第2時：木簡から「急就篇」の一節を小筆で臨書し、基本的な技法を習得する。

第3時：「急就篇」以外の木簡から一つ題材を選び、臨書学習の習熟を図る。

第4時：第2～3時で学習した隷書を活用して、名札（表札）作品として木片にまとめる。

##### ⑤評 価

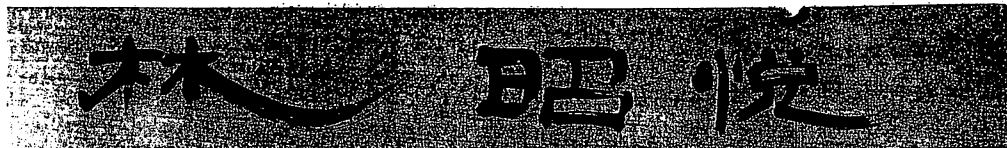
(1)隷書の特徴が理解できたか。

(2)隷書の用筆の基本（逆筆蔵鋒）と字形の構成法（扁平・一字一波）について習得できたか。

(3)身近にある隷書に関心をもち、生活の場での文字意識が高まったか。

##### ⑥その他

(1)名札の範書例



（実寸4cm×30cm）

(2) 評価カード

※下記の項目（観点）について次の四段階で自己評価する

- ・よくできた ----- 5点
- ・だいたいできた ----- 4点
- ・あまりできなかった ----- 3点
- ・わからない ----- 2点

自 己 評 価		第1時	第2時	第3時	第4時	合 計
学習 態度	① 興味・関心					
	② 取り組み方					
作 品	③ 用筆法（逆筆蔵鋒）	/				
	④ 字形（扁平）	/				
	⑤ 全体構成	/	/			
	⑥ 表現（イメージ）	/	/	/		
	⑦ 作品鑑賞	/	/	/		
総 合 計						
平 均						

(3) 書道ノート

第1時	・印 象	
	・説明のポイント	(用筆) ----- (字形)
第2時	・臨書した感想	
第3時	・選んだ理由	
第4時	・名札全体のイメージ ・字形・線質の工夫 ・強調する画はなに？ ・感想と反省	----- ----- -----

(縮小版)

## 5. 成果と課題

現在、先の学習指導要領改訂により、書道Ⅰの教科書から「隷書」の単元が姿を消してしまった。当初、本校でも書道Ⅱで取り扱うことにしたが、一年間だけの履修である体育科と園芸科の授業に、わずか4時間であるが「隷書」を取り入れることにした。実践例の単元設定の理由でも述べたように、それだけ魅力的な題材なのである。

隷書は生徒にとって初めて書くものであり、楷書や行書のようにいわゆる上手・下手という感覚でとらえにくい書体である。後漢の厳格で完成度の高い隷書に比べて、主として当時の生活の記録である木簡は、隷書の導入時の教材として最適である。

以下、ここ数年実施してきた授業を振り返ってその成果と課題についてまとめてみた。

- ・小筆を使わせたことで、隷書の基本的な用筆法が案外簡単に習得できたようである。
- ・逆筆蔵鋒の用筆法は既習の顔法（直筆蔵鋒）が役に立った。また逆筆を習得させるのに、時には左手で執筆させたのも効果があった。（筆管の傾斜と入筆の角度）
- ・扁平な字形のとり方は、用紙（半紙）をいろいろ折らせたことで、平易にかつ楽しみながら学習できたようである。
- ・八分（波法）の習得はかなり個人差が生じたが、運筆のリズムを大切に書くことができてよかった。
- ・木片という用材を使ったことで、想像以上に緊張感を持ったようである。それだけ完成の喜びや失敗の悔しさを体験できたようである。
- ・隷書が身近な生活の中に少なからず活用されていることが、夏休み中の課題によってかなり理解できてよかった。
- ・名札の形式やその使いみちを考えていきたい。
- ・書道ノートや評価カードについて、もっと時間をかけずに書けるよう工夫していきたい。
- ・観点別評価を評定にどのように導入したらよいか、今後検討していきたい。

## 6. 指導実践例その二

### ①題 材 「巻紙に手紙を書く」

### ②設定の理由

平素の教科指導で大切にしていることに「筆意」がある。書は筆を通して筆者の心情（気持ち）が自然と表れるものである。「筆意」とは、用筆・運筆の際の筆者の心構え、心情をいう。たとえ字そのものは稚拙であっても筆の動きに気持ちが表れた字は観る者の心に響くものである。筆意は無心の書に多いという。古来、名筆に手紙や原稿が多いのも頷けよう。

普通科の生徒には「漢字仮名交じりの書」の単元で、好きな詩文や校歌を題材に学習させているが、授業時数の少ない体育科の生徒には手紙を書かせることとした。何と言っても手紙が一番筆者の心情がにじみ出るものである。丁寧に心をこめて巻紙に手紙を書くことは貴重な体験となるはずである。

### ③目 標

- (1) 筆者の心情が表れるよう、心をこめて手紙を書くことができるようにする。
- (2) 漢字と仮名を調和させて書くことができるようにする。
- (3) 巻紙の書式について理解させる。

### ④指導計画（3時間）

第1時：現代作家や文学者の手紙や原稿を鑑賞させ、手紙の原稿（下書き）を作成させる。

第2時：漢字と仮名の調和を図り、運筆のリズムを大切にしながら巻紙に書かせる。

第3時：巻紙に清書し、封筒の宛名や住所を書かせる。

### ⑤学習内容と指導上の留意点

- (1) 現代作家や文学者の手紙や原稿を鑑賞する。
- (2) 手紙の原稿（下書き）をサインペンで書く。
  - ア. 内容は、両親や先生への礼状・卒業にあたっての決意とする。
  - イ. 形式は、巻紙に書く都合上、1行に7～9文字程度で20行以上とする。
- (3) 字の大きさに応じて行間の広さを決定する。
  - ア. 巻紙における文字の大きさと行間の関係について2～3範例を示し、形式を理解させる。
  - イ. 字の大きさはある程度自由にして、手紙の冒頭の数行を書いてみる。
  - ウ. 行間の広さについて考えさせ、半紙にフェルトペンで線を引き下敷きを作成する。
- (4) 手製の下敷きを使って、巻紙に全文を書く。
  - ア. 巻紙の天地を1cmほどあけ、行頭の高さがそろうようにする。
  - イ. 各行の末尾は、読みやすいように文節の切れ目に注意し、（熟語が二行にまたがらないように）字を小さくするか改行する。また相手の名が行の下部にこないようにする。
  - ウ. 仮名に対して漢字をやや大きめにし、全体の調和を図る。また、漢字と仮名の線質が同じになるようにアドバイスをする。
  - エ. 句読点はできるだけ打たず、半字分あけるかそこで墨継ぎをするか、または改行する。
- (5) 巻紙に心をこめて清書する。（気脈の貫通）
  - ア. 磨墨して墨の濃さを決める。
  - イ. 墨継ぎがわかるように、渴筆が出るまで墨を付けないように注意する。
  - ウ. 最終行の宛名の左端の余白を十分とって巻紙を切る。
- (6) 手紙を鑑賞する。
  - ア. 黒板等に掲示して、批評し合う。
  - イ. 自己評価をしてカードに記入する。

(7)封筒に宛名書きをし、巻紙を中に入れる。

ア. 名前や住所の位置と字の大きさに注意して、2～3回練習してから封筒に清書する。(はがきと封筒の宛名書きについては、以前硬筆で学習している)

イ. 巻紙の巻き方と折り方、それに封筒への入れ方について説明する。

#### ⑥ 評価

(1)心をこめて、手紙を書くことに集中できたか。

(2)漢字と仮名の調和を図ることができたか。

(3)巻紙の形式を理解できたか。

#### ⑦ その他

評価カードは、実践例その一と同様にチェック項目を考慮して作成した。



### 7. 今後の検討課題

巻紙という形式そのものは大変古いが、生徒は斬新な感じを抱いたようである。むしろ格好いいとさえ思ったようである。わずか三時間の学習であるが、達成感・成就感を味わえたのか、大半の生徒の表情は満足気であった。

以下、今後の課題を列举すると次のようになる。

- ・手紙や原稿に関する鑑賞用の教材であるが、やはり実物大のものが望まれる。そこで範書したものを見せたところ、生徒の反応が大きく、巻紙に書いた手紙の良さが直に伝わったようである。私自身巻紙による手紙をもらうことが少なくないので、これからはその何点かを生徒に見せてやろうと思う。
- ・手紙の形式や敬語の使い方などを指導する時間が足りなかった。
- ・巻紙に書かせる時、罫線を引いて作成した下敷きを使わせたが、できれば巻紙を左手に持ったまま書かせてみたい。普通科の生徒には短冊作品の折、この方法で書かせたがよい経験になったようである。
- ・巻紙の紙質であるが、今回は下敷きの線がよく見えるようにと市販されている薄手のにじみの少ないものを使用したが、よくにじむものにも挑戦させたい。墨量の変化が明確になるからである。
- ・批評会の時、このクラスは3年間同じメンバーであり、お互いを知り尽くしているので、思いの外心情を汲み取っていたようであるが、ともすると字が上手、下手だけの鑑賞に陥りやすい。
- ・自己評価は、生徒の性格の相違から過大・過小評価に陥りやすいので、できるだけ評価項目を細分化するか絞るかしなければならない。今後、他者の評価を加えて客観性を持たせたい。



8. おわりに

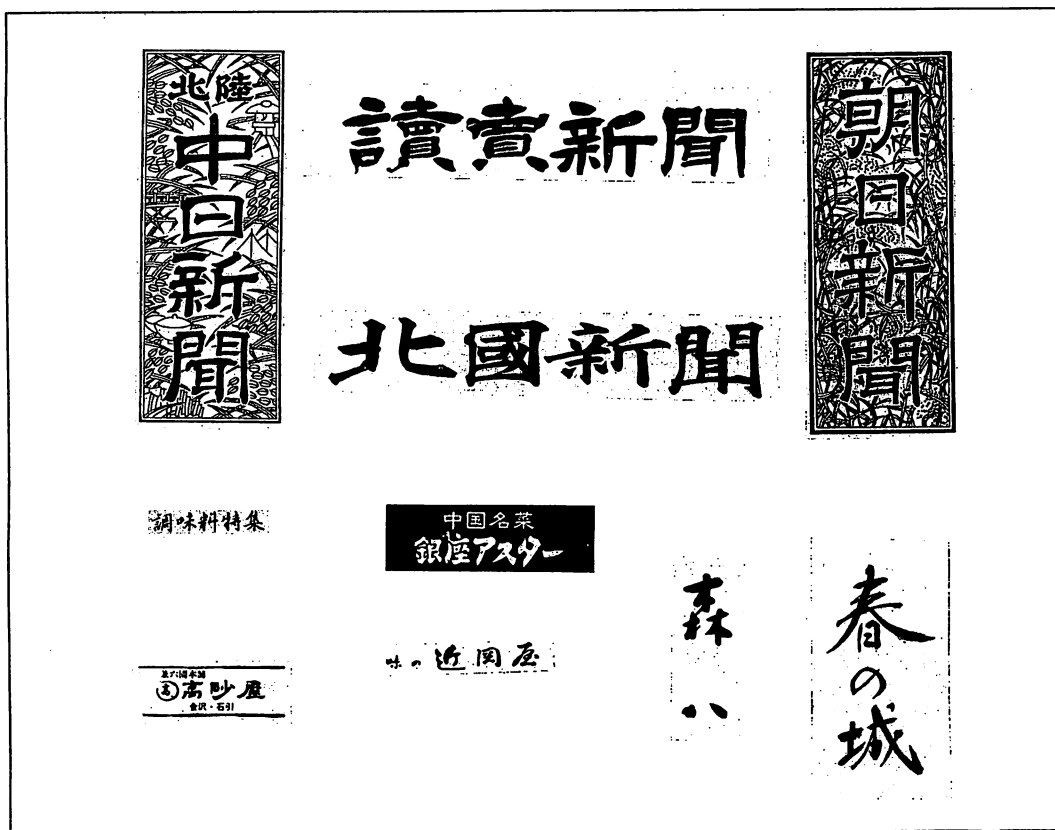
表現活動においては、「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」の三区分のうちいずれの分野であろうと、一番大切なことは生徒が何を書くか、何を書きたいかである。その書きたい語句や詩文をいかに引き出すかがポイントに思えてならない。ことさら個性を生かそうとしなくても、生徒自身が心情を表現したくなる語句であれば意欲も湧くだろうし、態度も向上するはずである。

この指導実践例は本校体育科3年の生徒を対象に実施したものである。体育科の特性から体育科目を30単位履修し、さらに3年間部活動に所属して厳しい練習に耐え、活躍した生徒である。従って、集中力や持続力において他の学科の生徒に比べてすばらしいものがある。一年間の学習内容は盛りだくさんとなったが、たいした消化不良も起こさず、書道を選択してよかったと思わせたと自負している。

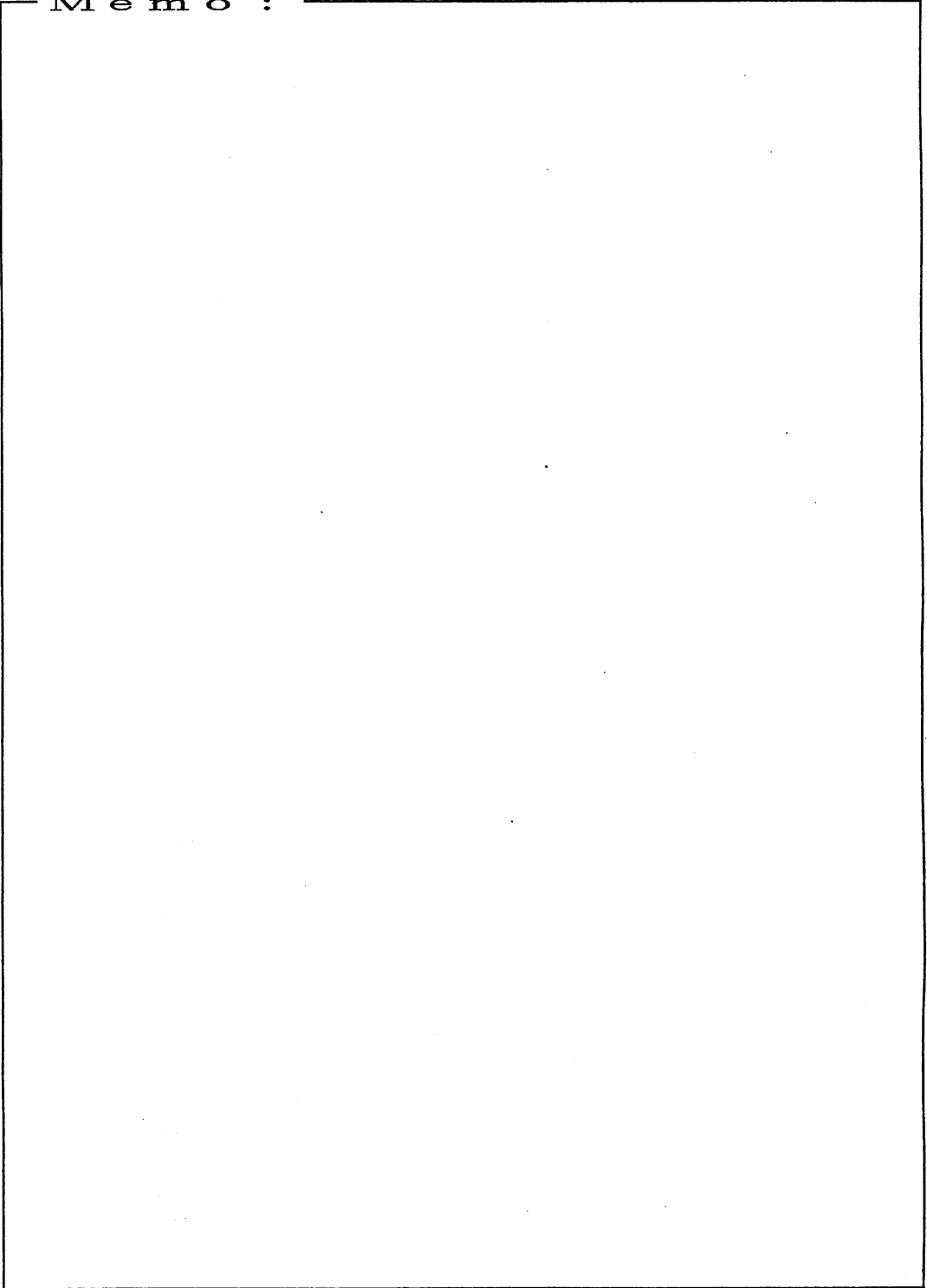
また、書の楽しさ、よさ、むずかしさに触れ、書を愛好する心情を養い、さらに生涯学習につながっていけばと願う昨今である。

※ 参考資料(夏休み中の課題)

—— 新聞、雑誌、チラシの切り抜き ——



M e m o :



連 盟 の あ ゆ み  
連 盟 役 員 一 覧  
大 会 役 員 一 覧  
連 盟 規 約

## 石川県書写書道教育連盟のあゆみ

1987. 1. 23 有志が集い県下に校種一貫した書写書道教育研究組織設立に向けて懇談する会を発足させ  
(昭和62年) る。(1988. 2. 26迄に9回の会合を開く)

1988. 4. 22 石川県書写書道教育懇談会と改称し第1回の会合を持つ [金沢大学教育学部書道演習室]  
(昭和63年) (1995. 10. 5迄に48回開催する。)

1989. 8. 29 石川県書写書道教育連盟設立総会 [ホテル六華苑]  
(平成 1年) (平成2年度に第1回石川県書写書道教育研究大会開催することを決定)

### 平成元年度 石川県書写書道教育連盟役員 (敬称略)

名誉顧問	金子曾政<元金沢大学学長>	
顧問	南 和男<石川県教育長>	
相談役	北西正二 坂口 敏 田島庄吉 久田久信 氷田茂良 横西 清	
会長	藤 則雄<金沢大学教育学部長>	
副会長	[石川県教育委員会学校指導課長] 三宅正敏	
	[金沢市小学校教育研究会書写部長] 河本隆成<金沢市立馬場小教頭>	
	[金沢市中学校教育研究会習字部長] 大野重幸<金沢市立金石中校長>	
	[石川県高等学校教育研究会書道部会長] 佐藤政俊<金沢女子高校長>	
	[石川書写の会会長] 山田泰正<鹿島町立越路小校長>	
	[金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者] 法水光雄<金沢大学助教授>	
理事長	[金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者]	兼 任
副理事長	: 幼・保部: 嘉門久直<森本幼稚園長>	
	: 小学校部: 森川登夫<津幡町立中条小校長> 谷村修次<小松市立蓮代寺小校長>	
	: 中学校部: 松寺淳照<金沢市立森本中教頭>	
	: 高校部: 中山武久<津幡高校教諭>	
監事	吉田一郎<小松市立向本折小校長>	
	木本峰生<七尾市教育委員会学校教育課長>	
理事	: 県教委学校指導課:	
	[小学校・中学校(国語科書写)担当指導主事] 永井志津子	
	[高等学校(芸術科書道)担当指導主事] 高沢幹夫	
*金沢地区		
: 幼・保部:	青山洋子<みどり・かわい幼稚園副園長>	
: 小学校部:	林 道子<南小立野小教諭> 中川晃成<館野小教諭>	
: 中学校部:	干場和子<野田中教諭> 古本佳世<野田中教諭>	
: 高校部:	林 昭悦<金沢女子高教諭> 石浦義彦<金沢泉丘高教諭>	
: 障害児学校部:	南 進 <県立養護学校教頭>	
*加賀地区		
: 小学校部:	穴田孝子<三谷小校長> 川筋登史己<向本折小教頭> 市村良二<木場小教諭>	
: 中学校部:	阿戸壮一郎<丸ノ内中教頭>	

: 高校部: 東野洋子<小松市立女子高教諭>北室正枝<金沢西高講師>  
: 障害児学校部: 川上千鶴子<小松養護学校高等部主事>  
\*能登地区  
: 小学校部: 西野和代<天神山小学校長>福田教導<金ヶ崎小学校教頭>  
: 高校部: 蝦喜代子<飯田高校教諭> 大場豊治<七尾高校教諭>

#### 事務局

: 事務局長: 永江芳教<金沢商高教諭>  
: 副事務局長: 久田英夫<金沢中央高校教諭> 中川見成<館野小教諭>  
: 庶務部: 部長・中田稚子<森本中教諭> 副部長・宮嶋雅美<明和養護学校教諭>  
: 会計部: 部長・佃さえ子<千代野小教諭> 副部長・八田和幸<鳴和中教諭>  
: 研究部: 部長・金田京子<字ノ気小教諭> 副部長・嵐 雪絵<金大付属中講師>  
: 会報部: 部長・板橋法子<河南小教諭> 副部長・西尾恵美子<中島小教諭>大坂育代<湯野小教諭>  
: 研修部: 部長・八田和幸<鳴和中教諭> 副部長・北村千恵<山中小教諭>  
: 調査部: 部長・大浦 努<大浦小教諭> 副部長・宮崎聡美<松波小教諭>西川真理<野々市小教諭>

11.15 第4回全国大学書写書道教育学会・平成元年度全国大学書道学会  
~17・平成元年度林蔵次郎絵全国書道教育部門会《後援》

12.1 第1回理事会 [金沢商業高等学校]

12.10 『石川県書写書道教育』(創刊号)発行

1990. 5.18 第2回理事会 [金沢商業高等学校]

(平成2年)10.1 『石川県書写書道教育』(第2号)発行

11.19 第1回石川県書写書道教育研究大会

[金沢市立南小立野小学校・金沢市立野田中学校・石川県立金沢泉丘高等学校]

第3回理事会

1991. 2.23 第4回理事会

(平成3年)3.1 『石川県書写書道教育』(第3号)発行

6.4 第5回理事会 [金沢商業高等学校]

10.30 『石川県書写書道教育』(第4号)発行

11.18 第2回石川県書写書道教育研究大会

[野々市町文化会館・野々市町立野々市小学校・石川県立養護学校]

第6回理事会

1992. 3.26 第7回理事会 [金沢ガーデンホテル]

(平成4年)3.30 『石川県書写書道教育』(第5号)発行

5.28 第8回理事会 [金沢中央高等学校]

10.20 『石川県書写書道教育』(第6号)発行

11.18 第3回石川県書写書道教育研究大会 [金沢市立鳴和中学校]

第9回理事会

1993. 3.30 『石川県書写書道教育』(第7号)発行

(平成5年)6.4 第10回理事会 [金沢中央高等学校]

11.18 第4回石川県書写書道教育研究大会  
〔石川県立金沢商業高等学校・金沢市立富樫小学校・石川県立金沢泉丘高等学校〕  
第11回理事会

1994. 3.31 『石川県書写書道教育』（第8号）発行  
(平成6年) 6. 4 第12回理事会〔金沢中央高等学校〕  
第4回石川県書写書道教育研究大会第1回実行委員会

10.19 第5回石川県書写書道教育研究大会〔小松市立女子高等学校・小松市立安宅小学校〕  
第13回理事会

12. 1 『石川県書写書道教育』（第9号）発行  
1995. 3.30 『石川県書写書道教育』（第10号）発行  
(平成7年) 6. 6 第14回理事会〔金沢商業高等学校〕  
9.20 『石川県書写書道教育』（第11号）発行

10.19 第6回石川県書写書道教育研究大会〔ラピア鹿島・鹿島町立越路小学校〕  
第15回理事会

1996. 3. 『石川県書写書道教育』（第12号）発行  
(平成8年) 4.25 第16回理事会〔金沢商業高等学校〕  
6. 6 第17回理事会〔金沢商業高等学校〕  
10. 『石川県書写書道教育』（第13号）発行

11.21 第7回石川県書写書道教育研究大会〔金沢市立弥生小学校・石川県立金沢中央高等学校〕  
第18回理事会

12. 6 第7回石川県書写書道教育研究大会反省会

1997. 3. 『石川県書写書道教育』（第14号）発行  
(平成9年) 6.25 第19回理事会〔六華苑〕

10. 『石川県書写書道教育』（第15号）発行

11. 第8回石川県書写書道教育研究大会〔加賀市立南郷小学校・加賀市市民会館〕  
第20回理事会〔加賀市市民会館〕

1998. 3. 1 第66回石川県書写書道教育懇談会〔六華苑〕  
(平成10年)

3. 『石川県書写書道教育』（第16号）発行

5.25 第67回石川県書写書道教育懇談会〔石川県立金沢伏見高等学校〕

7.10 第68回石川県書写書道教育懇談会〔石川県立金沢伏見高等学校〕

---

第9回石川県書写書道教育研究大会経過報告

---

- 7.18 第21回理事会 [六華苑]  
第9回石川県書写書道教育研究大会第1回実行委員会
- 8. 第1次案内発送
- 9.22 第69回石川県書写書道教育懇談会 [石川県立金沢伏見高等学校]
- 10. 第2次案内発送
- 10.15 公開授業指導案検討会 [内灘町立大根布小学校]
- 10.16 第70回石川県書写書道教育懇談会 [津幡町立中条小学校]
- 10.22 研究協議会Ⅰ検討会 [金沢市立浅野川中学校]
- 10.26 第9回石川県書写書道教育研究大会第2回実行委員会 [内灘町立大根布小学校]
- 10. 『石川県書写書道教育』（第17号）発行

## 石川県書写書道教育研究大会のあゆみ

- 1990. 11.19 第1回石川県書写書道教育研究大会  
「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」  
—豊かな体験を通して感動する心を求めて—  
—文字意識を高めるための基礎基本のあり方—  
[金沢市立南小立野小学校／野田中学校・石川県立金沢泉丘高等学校]  
・公開授業（小学2年・中学1年・高校1年）  
・記念講演「新学習指導要領のめざす書写書道の学習指導」  
久米 公先生（文部省視学官・千葉大学教授）
- 1991. 11.18 第2回石川県書写書道教育研究大会  
「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」  
—豊かな体験を通して感動する心を求めて—  
—文字意識を高めるための基礎基本のあり方—  
[野々市町文化会館・野々市町立野々市小学校・石川県立養護学校]  
・公開授業（小学校1年・6年）養護学校（学校公開／クラブ活動等）  
・記念講演「児童生徒の心をひきつける具体的な指導法」  
瀨木湖山先生（帝京大学教授）
- 1992. 11.18 第3回石川県書写書道教育研究大会  
「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」  
—豊かな体験を通して感動する心を求めて—  
—文字意識を高めるための基礎基本のあり方—  
[金沢市立鳴和中学校]  
・公開授業（中学校1年）  
・記念講演「学習指導の最適化のために」  
久米 公先生（千葉大学教授）

1993. 11. 11 第4回石川県書写書道教育研究大会

- 「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」  
—豊かな体験を通して感動する心を求めて—  
—文字意識を高めるための基礎基本のあり方—  
[石川県立金沢商業高等学校・金沢市立富樫小学校・石川県立金沢泉丘高等学校]  
・公開授業（小学校3年）（高等学校1年）  
・記念講演「江戸時代の書教育—川柳に見る手習い—」  
田中 東竹先生（実践女子大学教授）

1994. 10. 19 第5回石川県書写書道教育研究大会

- 「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」  
—文字意識を育て自ら学ぶ意欲を高める書写指導のあり方—  
—古典との出会いを大切に感動を分かち合う心を求めて—  
[小松市立女子高等学校・小松市立安宅小学校]  
・公開授業（小学校6年）（高等学校1年）  
・記念講演「文字感覚を養い自ら学ぶ意欲を高める書写書道教育のあり方」  
柳下昭夫先生（東京家政大学講師・前教育課程審議会委員）

1995. 10. 20 第6回石川県書写書道教育研究大会

- 「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」  
—知的な遅れを持つ生徒における余暇指導—書道を通して—  
—自己批評とペア学習を生かし、文字意識を高める書写学習のあり方—  
[ラビア鹿島・鹿島町立越路小学校]  
・公開授業（小学校5年）研究発表（養護学校）  
・記念講演「漢字は生きている」  
浦野俊則先生（二松学舎大学教授）

1996. 11. 21 第7回石川県書写書道教育研究大会

- 「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」  
—書きたい意欲を持たせるために—  
[金沢市立弥生小学校・石川県立中央高等学校]  
・公開授業（小学校4年）（高等学校2年次）研究発表（中学校）  
・記念講演「意欲を高めるための書写書道教育」  
平形精一先生（静岡大学教授）

1997. 11. 21 第8回石川県書写書道教育研究大会

- 「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」  
—一人ひとりがめあてを持ち、文字意識を高める授業をめざして—  
[加賀市立南郷小学校・加賀市市民会館]  
・公開授業（小学校4年）研究発表（中学校・高等学校）  
・記念講演「実験を通して考える書写・書道」  
——「手本が無くても書ける」をめざして——



平成10年度 石川県書写書道教育連盟役員(敬称略)

名誉顧問 金子曾政<元金沢大学学長>

顧問 西 貞夫<石川県教育長>

相談役 北西正二 坂口 敏 田島庄吉 久田久信 水田茂良 横西 清

参与 吉田一郎 森川登夫 木本峰生 谷村修次 南 進 河本隆成

会長 藤 則雄<金沢経済大学教授・前金沢大学教育学部長>

副会長

[石川県教育委員会学校指導課長]

福田繁機

[石川県私立幼稚園協会理事長]

源 通 <妙源寺幼稚園園長>

[金沢市小学校教育研究会書写部長]

福田芳子<金沢市立東浅川小学校教頭>

[金沢市中学校教育研究会書写部長]

富樫慶樹<金沢市立芝原中学校校長>

[石川県高等学校教育研究会書道部会長]

村西 一 <県立津幡高等学校校長>

[石川県特殊教育諸学校校長会代表]

米田友和 <県立平和町養護学校校長>

[石川書写の会会長]

由雄捷悦 <津幡町立津幡小学校校長>

[金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者]

押木秀樹 <前金沢大学教育学部助教授>

理事長 押木秀樹< 兼 任 >

副理事長：幼・保部：

：小学校部：

林 道子<金沢市立三馬小学校教諭>[市小教研書写副部長]

丹後誠仁<鹿西町立能登部小学校校長>

永井志津子<七尾市立小丸山小学校校長>

北野勝彦<小松市立能美小学校校長>

：中学校部：

桶成好江<田鶴浜町立田鶴浜中学校教諭>

：高校部：

林 昭悦<県立津幡高等学校教諭>

：盲・弱・養護学校部：

河合忠之<県立明和養護学校松任分校>[県特殊教育諸学校

教頭会会長]

監事 松本勝雄<中島町立熊木小学校校長> 中山武久<県立金沢泉丘高校教諭>

理事

\*石川県教育委員会

[小学校・中学校(国語科書写)担当指導主事]

帽子山瑞枝<堀越静福班指導主事>

[高等学校(芸術科書道)担当指導主事]

塩 泰尚 <学校指導課指導主事>

\*金沢地区

- : 幼・保部: 青山洋子<みどり・かわい幼稚園副園長>
- : 小学校部: 大浦 努<花園小学校教諭> 中川晃成<菅原小学校教諭>
- : 中学校部: 福島絹子<長田中学校教諭> 古本佳世<鳴和中学校教諭>
- : 高校部: 石浦義彦<金沢伏見高校教諭> 永江芳教<金沢商業高校教諭>  
久田英夫<金沢中央高校教諭>
- : 大学部: 北室正枝<金沢大学講師>
- : 盲・弱・難聴部:

\*加賀地区

- : 小学校部: 阿戸壮一郎<松陽中学校校長> 川筋登史己<中海小学校校長>  
西出和由<作見小学校校長>
- : 中学校部: 小座間美智子<東和中学校教諭> 高市比呂子<錦城中学校教諭>
- : 高校部:

\*能登地区

- : 小学校部: 福田教導<越路小学校校長> 濱 和子<能登島小学校教頭>
- : 中学校部: 山田寿一<七尾地方教育事務所管理主事>
- : 高校部: 嶺喜代子<県立水産高校教諭> 大場豊治<七尾城北高校教諭>
- : 盲・弱・難聴部: 清水徳典<七尾養護学校教諭>

事務局

- : 事務局長: 永江芳教<金沢商業高校教諭>
- : 副事務局長: 中川晃成<菅原小学校教諭> 岩田稚子<金石中学校教諭>
  
- : 庶務部:
  - 部長・岸瑞代<大聖寺高校講師> 副部長・山口雅美<額小学校教諭>
  - 部員・北村千恵<南郷小学校教諭> ・山沢聡美<中海中学校教諭>
  - ・柿木千鶴<松南小学校教諭> ・中島知子<小立野小学校教諭>
  
- : 会計部:
  - 部長・佃さえ子<美川小学校教諭> 副部長・西尾恵美子<福岡小学校教諭>
  - 部員・水上真由美<県立医王養護学校教諭>
  
- : 研究調査部:
  - 部長・板橋法子<那谷小学校教諭> 副部長・北野京子<大根布小学校教諭>
  - 部員・寺井純子<日置小学校教諭> ・坂井雪絵<大根布小学校教諭>
  - ・唐津清美 ・西脇良樹<北星小学校教諭>
  
- : 会報部:
  - 部長・八田和幸<浅野川中学校教諭> 副部長・田中学<松任高校教諭>
  - 部員・中辻育代<浜小学校教諭> ・谷口美晴<作見小学校教諭>
  - ・磯野美佳<金大付属中学校講師> ・新谷幸一<条南小学校教諭>

第9回石川県書写書道教育研究大会役員

—敬称略—

顧問	金子曾政 西 貞夫	
参与	北西正二 坂口 敏 田島庄吉 久田久信 氷田茂良 横西 清 吉田一郎 森川登夫 木本峰生 谷村修次 南 進 河本隆成	
大会長	藤 則雄	
副大会長	福田繁機 源 通 福田芳子 富樫慶樹 村西 一 米田友和 由雄捷悦 押木秀樹	
実行委員長	森川 徹	
副実行委員長	松井喜美子 林 道子 丹後誠仁 永井志津子 桶成好江 林 昭悦 河合忠之	
実行委員	[部担当]	[企画研修部] 研究授業：研究協議会 (松井喜美子) (林道子) (林昭悦)
		[庶務部] 大会案内：会場：受付：接待 (石浦義彦) (福島絹子) (古本佳世)
		[研究集録編集部] 研究集録編集・発送 (久田英夫)
		[記録部] 記録・写真 (大浦 努)
		[会計部] 会計 (青山洋子)
大会事務局	[事務局長]	永江芳教 [副事務局長] 中川晃成 岩田稚子
〇さし-7 s びり-7	[庶務部]	0岸 瑞代 s 山口雅美 北村千恵 山沢聡美 柿木千鶴 中辻育代 唐津清美 中島知子
	[編集部]	0八田和幸 s 板橋法子 田中 学 谷口美晴 磯野美佳 新谷幸一
	[記録部]	0坂井雪絵 寺井純子 西脇良樹
	[会計部]	0佃さえ子 s 西尾恵美子 水上真由美

第21回石川県書写書道教育連盟理事会 7/18

## 石川県書写書道教育連盟 規約

- 第 1 条 (名 称) 本会は、石川県書写書道教育連盟と称する。
- 第 2 条 (本部・事務局) 本会の本部を金沢大学教育学部内におき、事務局を事務局長の在勤校におく。
- 第 3 条 (目 的) 本会は、授業研究を中心として、県内の幼稚園(保育園・保育所)・小学校・中学校・高等学校・大学(短期大学・専門学校)・障害児学校等の一貫した書写書道教育と書道文化の更なる充実発展に努めるとともに、会員相互の親睦を図ることを目的とする。
- 第 4 条 (事 業) 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行なう。
- (1) 研究会の開催
  - (2) 会報の発行
  - (3) 関連する学会・研究会・内外諸機関等との連絡と協力
  - (4) 講演会・講習会の開催
  - (5) 調査研究
  - (6) その他必要な事業
- 第 5 条 (組 織) 本会は、県内の幼稚園(保育園・保育所)・小学校・中学校・高等学校・大学(短期大学・専門学校)・障害児学校の教員及び本会の目的に賛同するものをもって組織する。
- 第 6 条 (役 員) 本会に、下記の役員をおく。
- 会 長 1 名 副会長 若干名 理事長 1 名  
副理事長 若干名 監 事 若干名 理 事 若干名  
事務局長 1 名 副事務局長 若干名
- (1) 事務局には、次の六部を設け、各部とも、部長 1 名 副部長 1 名、部員若干名をおくものとする。  
・庶務部・会計部・研究部・会報部・研修部・調査部
  - (2) 本会に、名誉顧問・顧問・相談役・参与を推戴することができる。
  - (3) 役員を選出と任期は、下記のように定める。
    - (I) 役員は理事会において選出する。
    - (II) 役員任期は一か年とする。ただし、再任は妨げない。
- 第 7 条 (理事会) 本会の理事会は、本会の運営及び事業に関する重要事項を審議決定する。
- (I) 理事会は、必要に応じて、会長が召集する。
  - (II) 理事会は、第 6 条における、会長・副会長・理事長・副理事長・監事・理事・事務局長・副事務局長・事務局各部長によって構成する。
- 第 8 条 (会 計) 本会の経費は、会費及びその他の収入をもってこれにあてる。
- 第 9 条 (会計年度) 本会の会計年度は、4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。
- 第 10 条 (監 査) 本会の会計は、監事によって監査をうける。
- [附 則]
- 第 11 条 規約の改訂は、理事会の議決を経なければならない。

平成 元年 8 月 29 日 制定

平成 2 年 5 月 18 日 一部改正

中国品Ⅱ古硯・印材・筆・墨・硯・紙  
国内品Ⅱ画仙紙・色紙・各種額縁・水墨画用品

文房四宝

# 文真堂

金沢市尾張町二丁目二一―二八  
電話(〇七六)二六四一―八三六

## 東京書籍

北陸出張所：金沢市尾山町1-8 朝日生命金沢ビル  
〒920-0918 ☎076-222-7581 FAX076-232-2719

書の心と智慧を凝縮した、  
珠玉の名言を集大成！  
初めての書の名言辞典！

# 書道

# 名言辞典

宇野雪村  
西林昭一 [編著]  
福本雅一

A5判・上製本・カバー付・ケース入り・本文七八八頁・カラー口絵四頁 定価七八〇〇円(税込)



中国三千年の書作品や古今東西の芸術理論を縦横に取り上げながら、  
書の理論と美学の原理を分析・解明する。

# 書の美学

陳廷祐 著・成家徹郎 訳

四六判・二八〇頁 定価二五〇〇円(税込)

飯島春敬編 A5判 三九六頁 定価二〇〇九四円(税込)

# 実技書の古典

日本・中国を代表する漢字・かなの名書150余種を技法中心に鋭く解説する。臨書・做書作品を多数収録した書法百科事典

# 筆

株式会社

## 入木筆

# 博文堂本舗

〒639-1134 大和郡山市柳1の1

TEL 大和郡山 07435-2-3251(代)

FAX 07435-2-3253



## ◎ぼくえき本格派

中墨タイプ

中濃タイプ

墨磨職人SS型  
斜めになった墨池硯  
にこそ磨墨ノ極意が

桐油煙  
桐華墨液  
500ml

菜種油煙  
天爵墨液  
500ml

〒630-8357

株式会社 墨運堂

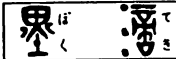
奈良市杉ヶ町39-1  
TEL(0742)26-5611

### 豊彩潤沢の高級液体墨

伝統と技術をほこる銘墨



そのまま書ける書道用液



### 株式会社 呉竹精昇堂

〒630-8670 奈良市南京終町7丁目576  
TEL 0742(50)2050 東京・札幌・仙台・福岡

伝統的工芸品指定 熊野筆  
高級書道用筆墨硯

## (株)久保田徳

筆匠 竹嶋

☎731-4215

本店 広島県熊野町 ☎(082)854-0009 番付

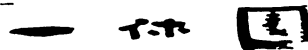
東京 東京都台東区台東3-42-4

書道殿堂東京久保田号ビル



伝統的工芸品 熊野筆製造  
併設全日本書作家練成道場

熊野筆センター  
株式会社



本社 〒731-4200 広島県安芸郡熊野町1897 TEL082(854)0019(代)  
大阪営業所 〒580-0014 松原市岡6丁目5-50 TEL0723(35)0605  
東京営業所 〒226-0004 横浜市都筑区荏田東3-1-15-201 TEL045(942)4119  
"アンテナショップ"  
熊野筆センター広島店 〒730-0013 広島市中区八丁遊5-29 TEL082(222)1919

- ・因州産紙
- ・書道用紙
- ・洋紙板紙
- ・包装資材

## 因州屋

〒680-0912 鳥取市商栄町155番地

TEL(0857)24-6611(代) FAX(0857)27-1811



類様の総合専門メーカー

# 株式会社 大和美術工芸

本社・工場/富山県高岡市内免4-6-33  
(〒933-0941) Phone 0766(21)6112(代)  
ファックス ☎0766(25)3851

## 額

株式会社

## 大

## 和

新鶴マークは高級額のシンボルマークです。



◆事業内容 器道具・和紙・日本画具・洋画・封筒類・特注品・屏風・活字・複製の製造販売  
◎本社/広島県中核町上下町上下1513-1 ☎084762-3517 (代) FAX084762-4328  
◎東京営業所/東京都三浦市下瀬1-16-5 ☎0426-42-3085 FAX0426-42-3251  
◎福山営業所/福山市春日町6-14-24 ☎0849-41-8161 FAX0849-41-8048  
ホームページアドレス <http://www.daiwa.co.jp>

公的資格を取ろう!!

文部省  
認定

# 硬筆書写・毛筆書写検定

●後援—全国都道府県教育委員会

●試験の種類と程度

4級…基礎的な技術及び知識

3級…一般の技術及び知識

2級…専門的な技術及び知識

1級…高度な専門技術及び知識

●試験日（同日実施）

◎平成10年度第2回…11月22日（日）

◎平成10年度第3回…11年1月30日（土）  
（毎年6月、11月、翌年1月の3回実施）

●試験地

全国主要都市、20名で試験会場設置可

●受験者携参考書刊行（申し込みは協会へ）

硬筆：手びきと問題集（定価900円〒310円）

毛筆：手びきと問題集（定価1,000円〒310円）

●受験料

	1級	2級	3級	4級
硬筆	4,120円	2,060円	1,550円	1,030円
毛筆	4,640円	2,680円	1,850円	1,030円

●特典

書写・書道教育に最適。公的資格のため履歴書に書け、国語力もつき、高校入試の調査書に書ける。

高校の単位認定に認められ、大学・短大の入試で優遇され、事務能率の向上にも役立つ。

■願書請求方法—宛名明記の返信用封筒（80円切手貼付）と切手200円を同封し、協会にご請求ください。

〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-41-3 TEL03-(3988) 3581(代)

財団  
法人

日本書写技能検定協会

書道・水墨画用品専門店

文房四宝 絃 貴 堂

〒920-0002 金沢市千木1丁目33-1 TEL・FAX (076) 253-0618

平成十年 度

光村 図 書 版 教 科 書 完 全 準 拠

小学校 書写 児童用教材

書き方の練習

一・二年各上下 三〜六年各一冊 三三〇円(税込)

B5 拡大判 二四〜三二頁 四色刷り

毛筆書き方の練習

三〜六年各一冊 四二〇円(税込)

B4判 各三二枚(六四頁)

中学校 書写 生徒用教材

中学・硬筆練習帳

B5判 四八頁 全年年共通 三五〇円(税込)

小学校 書写 教授資料

毛筆書き方ビデオ

初・中・上級編 各九三三三円(税別)

VHS各巻 約三〇分 解説書付き

改訂版 字形と筆順 氷田光風編著

四六判 二八〇頁 一五〇〇円(税込)



第9回

石川県書写書道教育研究大会

NSC 中村産業株式会社

中 村 栄 一

金沢市涌波3丁目6-13 〒920-0953

TEL(076)261-8569

FAX(076)224-8287



書画芸術の明日を創る

筆・紙・墨・硯

もろやろん

筆 文

株式会社 賛交社

本社 京・山科区勤修寺東出町4-1 ☎075(572)8964  
二条店 京・中京区河原町通二条西入 ☎075(222)0390



この道四百年・創業慶長十四年(1609年)

株式 浅野太鼓  
会社

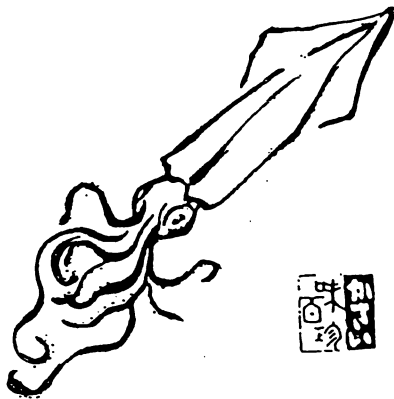
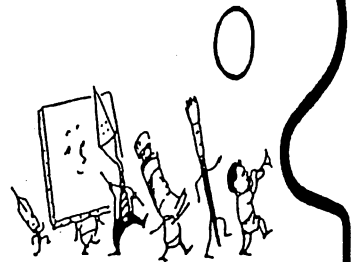
浅野太鼓祭司株式会社

〒924-0051 松任市福留148 TEL (076)277-1277

デザイン・日本画・洋画材料・額縁

かわさき画材

金沢市寺町3丁目13の19 TEL (076)243-8244



珍味のかわさき



本社 / 〒921-8044 金沢市米泉町8丁目8番地  
TEL (076) 247-2231  
FAX (076) 247-3612  
片町店 / 〒920-0981 金沢市片町1丁目7番17号  
TEL (076) 262-9333  
FAX (076) 262-9333

文 溪 堂  
新 学 社  
光 文 書 院  
教 育 同 人 社  
日 本 標 準



代理店

教材・教具・文具

**藤田商店**

小松市新鍛冶町13の1  
TEL0761-21-3278

写真・ビデオ制作 **光画社**

☎920-0902 金沢市尾張町1丁目7-8

☎金沢 076-264-3288(代) F A X 076-262-4537

第9回石川県書写書道教育研究大会

きものと洋品

**たかもり**

津幡中央銀座商店街

TEL 076-289-2355

**廣 告 看 板 一 般**

有限会社

**アサダ・デザイン看板**

代表取締役 浅田 徹

野々市町本町4丁目16-31 TEL 248-2367(代)



# コンビニエンス・ストア Rabbit Foot

津幡店 / 河北郡津幡町浅田丙48-1 TEL (076) 289-4612

宇ノ気店 / 河北郡宇ノ気町内日角中12 TEL (076) 283-5302

全 国  
菓子博

名誉大賞受賞

エムム 遊仙華 八っ房の梅 俱利伽羅山 不動も赤か

御進物に  
お茶のひとつに  
御愛用下さい

小泉菓子舗  
津幡町 TEL 289-2637

## 旅、こころ

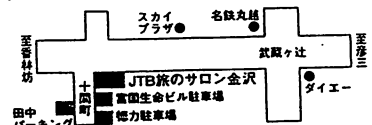
パッケージツアーはもちろん、お客様のニーズにお応えしたオーダーメイドの旅まで、旅のこころなんでもそろうています。  
私たちは、旅する人の心を大切に、もっと楽しい旅をお届けします。  
旅する人の気持ちで……新しいJTB。



For Your Travelife

### JTB旅のサロン金沢

〒920-0917 金沢市下堀町30(スカイプラザ前)  
海外専用 ☎0120-64-7082 国内専用 ☎0120-64-7072



※お車でご来店のお客様は上記の駐車場をご利用下さい。  
1時間無料券を差し上げます。  
●営業時間 平日・土曜日/9:30~17:30(日・祝日休業)

教材教具・視聴覚機器・OA機器・ワープロ・パソコン

株式会社 **ダイシン**

金沢市米泉8丁目105  
TEL 243-1555  
FAX 243-1783

書籍・文房具・教材・教具

# 粟津書店

粟津祐治

〒924-0855 石川県松任市水島町168

TEL 277-0303

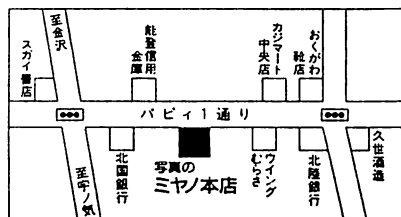
FAX 277-2505

## スタジオ写真

赤ちゃん・ご家族・成人式・ご入学・七五三・証明写真・商品撮影・  
婚礼写真・葬儀用写真・etc

写真の **ミヤノ**

- 本 店/津幡町(パビィ1通り) ☎289-4181  
FAX 289-2143
- スカール店/ショッピングセンタースカール1F ☎288-3187
- 森 本 店/マイモールモリモト ☎257-3780
- 新 神 田 店/金沢市入江1丁目28 ☎291-8022



OA機器・事務器・文具・紙製品

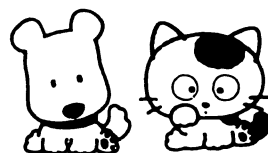
# 百々商会

〒920-0202 金沢市木越1丁目69番地

TEL・FAX 257-2065

学校教材・文具・事務用品

## 奈良教材文具店



松任市新田町10-3  
TEL 076-274-6370

野球用品専門. スポーツ用品全般

# 辻野スポーツ

金沢・安江町アーケード街

TEL 263-7777(代)

TOYO PHOTO STUDIO

## 東洋写真館

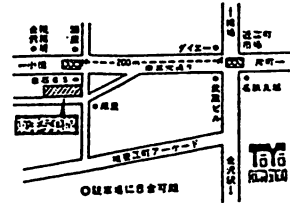
(スタジオ撮影 ビデオ撮影 出張撮影  
スクールアルバム コマーシャルフォト)

営業時間 AM9:00~PM7:00

金沢市彦三町二丁目五-五 ☎920-0901

☎(076)231-6456

FAX(076)221-1097



### 額縁が安い. 画材が安い!!

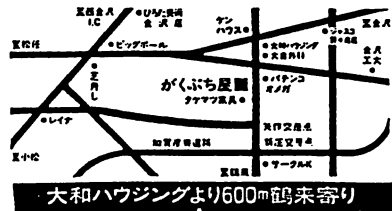
書道額

県下一の品揃

野々市のつるぎ街道

## がくぶち屋

HIROTA



大和ハウジングより600m鶴来寄り

100坪の売場にぎっしりと2500点

野々市町白山町104

TEL 076-294-0203

FAX 076-294-7050

## トヨコ

日本の旅

世界の旅

## VIFA



豊かな感動のステージへ

# 東急観光

金沢支店

TEL076 (222) 0109

君がいれば、  
そこがキャンパス。

感性とテクノロジーが、  
快適な学生服を創造します。

## 北国被服株式会社

〒921-8031 金沢市野町4丁目7-5  
TEL(076)241-3457 FAX(076)244-3235



北国コカ・コーラボトリング株式会社  
HONKONG COCA-COLA BOTTLING (H.K.) LTD. (コカ・コーラ(株)香港支社)  
Coca-Cola is a registered trademark of The Coca-Cola Company. © 1997

## COLLABORATION

印刷・出版  
MULTI-MEDIA

ともに考え、ともに伸びていける創造的な関係。  
栄光プリントはコラボレーションを目指します。



Creative & Communication

株式会社栄光プリント

〒920-0806 金沢市神宮寺3-4-17 TEL(076)251-3076 FAX(076)252-2917

<http://www.yume.or.jp/ec/eiko>

墨場必携  
唐詩選を書く

五言絶句七言絶句の画期的な文字遊び組合せ自在行草書創作字典

B6判・496頁  
3800円(税別)

日本習字普及協会  
東京都文京区本郷3-4-5  
〒113-0033 ☎03-3813-6925

墨場必携  
白楽天を書く

五言・七言絶句のすべてと長恨歌を収録

はじめての篆刻

おもしろそうだから作ってみたい。という  
人の為のわかりやすい印のほり方実作本。  
石野黎峰著 B5・120頁・2500円(税別)

B6判・464頁  
3800円(税別)

# 石津表具店

京都市中京区壬生馬場町16-5  
TEL 075 (812) 3318

## あしたの教育を拓く

- 暁教育図書のエデュケーション・教材
  - 毎日の学習教材「はつらつ」
- ### 北陸暁図書販売株式会社

金沢市石引4丁目4-4  
☎(076) 232-2425(代)

日本画・洋画

美術部

屏額掛  
風装軸

壁襖  
貼製  
工作  
事部

岡田錦成堂  
安江町13表具屋小路 ☎金沢 221-3658

祝 第9回石川県書写書道教育研究大会

## きくざわ書店

七尾店・羽咋店・穴水店

諸紙・印刷・文房具・事務用品

## 鷹田弘文堂

代表 鷹田 弘

〒920-0831 金沢市東山3丁目10番43号  
TEL・FAX 252-9341

## 学校教材特約店 島野教材社

代表者 島野和夫

石川県小松市矢田野町イの41  
電話・FAX(0761)44-2622  
郵便番号923-0342

参考書 心理検査 教材

## 株式会社 布村教材社

金沢市小坂町中35-4  
TEL (076) 251-1702



金沢・北安江  
TEL 231-6773  
FAX 231-6940

学校教材なんでも

総合印刷・企画・編集

**東井印刷所**

金沢市糸田新町10-1  
TEL (076) 280-1625  
FAX (076) 280-1925

第九回 **祝**  
石川県書写書道教育研究大会

**(有) ヤマガミ共育社**

〒921-8001 金沢市高島 3-154  
TEL 076(291)1250 FAX 076(292)8008  
<http://www.nsknet.or.jp/i-kazu/index.html>

教材・教具・OA機器・その他

**(有) タカセ教材**

〒923-0948 小松市錦町28番地  
TEL (0761) 21-2186  
FAX (0761) 21-4868

sports

いい汗ながそう shop

**MM** スポーツしよう  
野々市町高橋町19-18

**スポーツ**

TEL (076) 246-2488

**(株) ハローバッティングセンター**

草野球から学童・中学・高校野球まで野球情報が満載  
<http://www.nsknet.or.jp/~hellobc/index.htm>  
E-mail: hellobc@nsknet.or.jp

〒920-0016 石川県金沢市緒江町中丁179-3  
TEL/076-223-0541 FAX/076-223-0562  
営業時間 AM 9:00~PM 11:00

野田 誠光霊園 分譲中



**星山石材株式会社**

〒921-8112 金沢市長坂3丁目12番22号  
TEL (076) 242-1644(代)  
FAX (076) 242-9493  
菊川ショールーム 61-0333

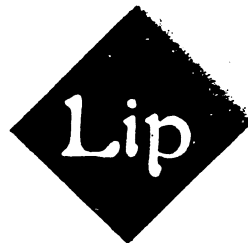


宝石・時計・メガネ

**金沢宝石鑑別センター**

日本宝石コンサルタント協会会員  
株式会社  
**ジュエリー 伊田**

〒920-0901 金沢市彦三町2-3-11  
TEL (076) 221-7162(代)  
FAX (076) 221-3409



金沢市片町2-21-6 シンニチビル2F  
Phone 076-262-1919 〒920-0981



# 特別仕様3階建て住宅「セレッソ」

重量鉄骨3階建てまたは、1階鉄骨、2・3階木造、準木造の構造で対応します

資金計画のお手伝いもいたしております。お気軽にご相談ください。

3階建住宅  
[高断熱仕様]  
木造住宅



Sakura

# 株式会社さくら

金沢市二口町二95-1 ☎076(223)0505

☎0120-71-0505

## あすを築く教育のいしずえ



北陸青葉

学校教材販売

# 本田教材社

書道セット

金沢市寺町1丁目3-26

かきかたノート

☎(076)241-1339

新しい時代へ  
新しい発想

企画・印刷・出版の分野から 新しい時代のメッセージ

# 熊登印刷株式会社

本社 ● 〒920-0855 石川県金沢市武蔵町7番10号

TEL 076-233-2550(代) FAX 076-233-2559

工場 ● 〒924-0013 石川県松任市番匠町293番地

TEL 076-274-0084(代) FAX 076-274-0016

グループ会社 ● 株式会社博文堂 シナジー株式会社

天徳院前 ・尼寺で食べる  
 ・庵そば 庵うどん

しょう りゅう あん  
**小庵**

金沢市小立野四丁目二番三号  
 TEL (076) 261-4321

祝 第9回 石川県書写書道教育研究大会

小学・中学書写教科書

高校書道教科書

小学書写硬筆練習帳

中学書写硬筆練習帳

大阪書籍株式会社



〒537-0001  
 大阪市東成区深江北2-1-1  
 TEL: 06-973-9800 (代)  
 FAX: 06-974-2691  
 URL: <http://www.osaka-shoseki.co.jp>

“せせらぎの街 柿木島”  
**本** うつのみや (雑貨) **Oops!**  
 (ワッパス)

〒920-0962 金沢市広坂1丁目1番30号 TEL.076(234)8111(代)

Life and Technology  
**INAMI 教材**  
 PHONE (076)222-0565 FAX (076)224-0581

**日本旅行**

■金沢教育旅行センター

金沢市片町1丁目6-13(明治生命ビル6F)

☎(076)264-2202

本・学用品・事務用品・音楽教室(ピアノ・テクニートン入校随時)

BOOKS

**スカイ**

■津幡本店  
 河北中央病院よこ  
 TEL09-4131(代)FAX88-3799  
 ■太田店  
 津幡検問所向い  
 TEL09-4110 FAX88-4510